

科目名	看護学概論		担当教員			
開講年次	1 年 前期		単位数	1	時間数	30
テキスト	看護学概論 医学書院					
参考文献	ナイチンゲール看護論入門:金井一薫著 中範囲理論					
関連科目	教育学 機能看護論 地域・在宅看護論 関係法規 等					
学習のねらい	1. 看護の定義・対象・方法、社会が求める看護について多角的に思考する必要を学ぶ。また、看護職者としての展望を持ち、学習する目的を明確にできることが狙いである。					
目標	1. 概論を学ぶ意義を理解し、看護職者としての展望を持ち、学習する目的を明確にできる。 2. 社会が求める看護を提供する必要性を理解し、看護専門職者として看護の質保証が求められていることを理解する。 3. 看護実践を検証する上で、手立てとなる看護理論を学ぶ意義を理解する。また、本学におけるナイチンゲール看護論を基盤とした持てる力を支援する看護を学ぶ意義を理解する。 4. 看護技術は、看護の専門知識に基づいて、受け手の安全・安楽・自立を目指した目的意識的な直接行為であり、実施者の看護観と技術のレベルが反映される看護実践である。その看護実践については、個人として責任を持つと同時に多職種との連携協働により、コミュニケーション能力 (ICT*活用含む) が求められていることを理解する。 * ICT:information and communication technology					
回数	学習項目	学習内容				方法
1 2 3	1. 看護の歴史 看護の定義 看護の対象 看護の方法	1) 看護について、様々に定義されているが、対象は人間であり、対象の理解と人間の健康を支援することを理解する。 2) 時代とともに社会が求める看護の変化を理解し、保健医療福祉のチームとそのメンバーとして多職種連携・協働とコミュニケーションが求められていることを理解する。 3) そのコミュニケーションツールとして ICT の活用が推進されていることを理解する。 4) 健康の定義は、時代とともに変遷していることを理解する。 5) 方法としての看護技術は、看護の専門知識に基づいて受け手の安全・安楽・自立を目指した目的意識的な直接行為である。実施者の看護観と技術のレベルが反映されるものである。その看護技術の意味を理解する。				講義 演習
4 5	2. もてる力を支援する看護と学習支援	1) 対象の健康教育を受ける権利があることを理解し、看護における学習支援は対象のもてる力を支援する看護について理解する。				講義・演習 (事例学習)
6	3. 地域・生活・家族	1) 看護の提供の場は、病院施設のみでなく人間の生活の場にある。多様な生活の場である地域での看護求められていることを理解する。				演習

授業科目名	機能看護学Ⅰ（安全を支える援助技術）	担当教員			
開講年次	1年次	単位数	1	時間数	30
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ				
参考図書	形態機能学 日本看護協会				
関連科目	微生物学 病理学 人間関係論 ナイチンゲールと三重の関心				
ねらい	看護技術の基盤となる人間関係形成に大きく影響を及ぼすコミュニケーションの意義と方法について学び、対象としてのコミュニケーション能力を高めていくための基本的スキルを習得する。また、安全・安楽・自立を考慮した病床の環境や安楽な体位の保持の援助技術や感染対策についても学ぶ。感染対策は、スタンダードプリコーションに基づいて実施ができる技術の習得をする。				
目標	1. 看護場面において対象の持てる力をひきだせるコミュニケーション技術を理解する。 2. 看護における環境および療養環境調整の意義と目的を理解する。 3. 標準予防策・感染経路別予防策防について理解する。 4. 人間の構造を理解し、ボディメカニクスの原理を考慮した技術の活用方法を習得する。 5. さまざまな体位とその目的を理解し体位変換の援助方法を習得する。 6. 車椅子やストレッチャーの移乗の援助と移送の援助方法を習得する。				
回数	学習項目	学習内容	方法		
1 2	1.環境	1) 看護において環境を整えるということ 2) 病床環境の整備 (1)入院における生活環境の変化 (2)病院の構造・病室の種類 (3)病室の環境調整と調整 (4)ベッド (5)寝具 (6)ベッド周囲の快適性とは	講義演習		
	2.安全・安楽な環境を整える看護実践	1) 臥床患者のシーツ交換と環境調整	演習		
3 4	3.効果的なコミュニケーションの実際	1) 接近的コミュニケーションを成立させるためには (1) 傾聴の技術 (2) 情報収集の技術 (3) 説明の技術 (4) アサーティブネス	講義演習		
	4. コミュニケーション障害の対応	1) コミュニケーションに障害がある人の特徴 2) 言語的コミュニケーションが必要な身体機能 3) コミュニケーション障害がある人への対応			

	5. 看護場面において効果的なコミュニケーション技法	1) 自己のコミュニケーションの特徴を考察する 2) 自己のコミュニケーションを振り返る	演習
5	6. 感染予防	(1) 標準予防策の基礎知識	演習
6	1) 標準予防策	(2) 対策の実際	
7	(スタンダードプリコーション)	①手指衛生、個人防護具 (PPE) ②患者ケアに塩生した器具 ③環境対策 リネン ④鋭利なものの取り扱い ⑤患者の蘇生など救急時の対応 ⑥患者配置 呼吸器衛生	
8	2) 感染経路別予防策	(1) 感染経路別予防策の基礎知識 ①接触予防策 ②飛沫予防策 ③空気予防策	講義演習
	3)無菌操作	(1) 無菌操作の基礎知識 (2) 対策の実際	
	4)感染性廃棄物の取り扱い	(1) 感染性廃棄物の基礎知識 (2) 対策の実際	
	5)針刺し防止	(1) 針刺し防止の基礎知識 (2) 対策の実際	
	6)感染予防対策の看護実践	(1) 個人防護具 手指消毒 (2) 無菌操作 滅菌手袋、滅菌ガウン	
	活動と休息		
9	1)ボディメカニクス	(1) ボディメカニクスの原理と看護実践への活用	講義演習
10	2)体位変換	(1) 体位変換の基礎知識と実際 左右の移動、上方への移動 仰臥位⇄側臥位 仰臥位→ファ ラー位、仰臥位→長坐位→端坐位 →立位	
11	3)安楽確保の技術	(1) 罹法とケアを通じてもたらされる安楽	
12	4)歩行時の援助	(1) 歩行時の基礎知識と実際 歩行を補助する器具 (杖・歩行器)	
	5)移乗・移送	(1) 車椅子・ストレッチャーの基礎知識	

13 14 15	6)看護実践 7) 技術評価 学科評価 まとめ	と実際 (1)ボディメカニクスに基づいた体位変換 車椅子・ストレッチャーの移乗・移送 単位認定試験 単位認定試験 (45 分)	
評価方法		学科試験 技術試験 出席状況 授業態度	
評価区分		学科試験 60% 技術試験 40%	

授業科目名	機能看護論Ⅱ (清潔・衣生活援助技術)	担当教員	
開講年次	1年次後期	単位数	1
		時間数	30
テキスト	基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ:医学書院		
参考文献・ 関連科目	看護が見える①基礎看護技術:MEDIC MEDIA、看護援助動画 看護形態機能学:日本看護協会出版 生物学、解剖生理学、歯・口腔:医学書院		
学習のねらい	・人が生命をはぐくみ、維持するためには生活行動が不可欠であり、「衣・食・住」の営みが基本となる。からだの清潔を保ち、身だしなみを整えることは人間の基本的ニーズであり、それらの維持が困難になった場合、対象に適した方法や組み合わせを工夫して援助を行う技術を習得する。また、対象の清潔に対する考え方や習慣は多様であるため、個別性をふまえて安全で安楽な援助技術、対象に配慮した技術を習得する。 ・外界の刺激から身を守る衣服の役割と同様に、皮膚・粘膜自体の身体内部を守る働きを理解し、対象の日常生活に近い方法で清潔行為をし、その人らしい装いができるよう援助する。		
目標	1. 皮膚・粘膜の構造を理解し、清潔援助の効果と全身への影響を理解する。 2. 対象の生活を整えるための身体の清潔および衣生活の援助技術を習得する 3. 対象の個性を踏まえ、安全で安楽な清潔援助を計画・実施・評価できる。 4. 対象の羞恥心に配慮し、反応を観察しながら援助が実施できる 5. 演習を通し、対象の気持ちを推察できる ①対象が気持ち良いと言える援助の実施		
回数	学習項目	学習内容	方法
1 2 3	1. 清潔援助の基礎知識	1) 清潔の意義 (1) 心地よいとは何かを考える ① 清潔援助の身体への効果 ② 患者の状態をアセスメントし援助方法を選択 ③ 湯の温度 ④ 所要時間 ⑤ 体位 2) 原理原則・根拠に基づいた、対象が「心地よい」と感じる援助方法を考える (1) 入浴・シャワー浴 (2) 洗髪・整容 (3) 手浴・足浴・爪のケア (4) 全身清拭・衣服 (5) 陰部洗浄・おむつ交換 (おむつのあて方)	講義演習 グループワーク 講義演習 グループワーク
4 5		3) グループワークでの学びを発表、共有し実践につなげる	援助方法を発表 発表方法は自由 実践につながるように

6	2. 清潔援助の実際 事例患者への看護実践	1)グループワークでの学びを元に援助の実際を学ぶ (1)洗髪 ・洗髪車 ・ケリーパッドを使用 (2)手浴・足浴・爪切り (3)全身清拭・寝衣交換 学生同士で患者役・看護師役をする (4)陰部洗浄・おむつ交換 陰部モデルを使用し、男性・女性 両方を実施する 学生同士で患者役・看護師役をする	講義演習 グループワーク 課題:援助計画を各自作成
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			
40			
41			
42			
43			
44			
45			
46			
47			
48			
49			
50			
51			
52			
53			
54			
55			
56			
57			
58			
59			
60			
61			
62			
63			
64			
65			
66			
67			
68			
69			
70			
71			
72			
73			
74			
75			
76			
77			
78			
79			
80			
81			
82			
83			
84			
85			
86			
87			
88			
89			
90			
91			
92			
93			
94			
95			
96			
97			
98			
99			
100			
101			
102			
103			
104			
105			
106			
107			
108			
109			
110			
111			
112			
113			
114			
115			
116			
117			
118			
119			
120			
121			
122			
123			
124			
125			
126			
127			
128			
129			
130			
131			
132			
133			
134			
135			
136			
137			
138			
139			
140			
141			
142			
143			
144			
145			
146			
147			
148			
149			
150			
151			
152			
153			
154			
155			
156			
157			
158			
159			
160			
161			
162			
163			
164			
165			
166			
167			
168			
169			
170			
171			
172			
173			
174			
175			
176			
177			
178			
179			
180			
181			
182			
183			
184			
185			
186			
187			
188			
189			
190			
191			
192			
193			
194			
195			
196			
197			
198			
199			
200			
201			
202			
203			
204			
205			
206			
207			
208			
209			
210			
211			
212			
213			
214			
215			
216			
217			
218			
219			
220			
221			
222			
223			
224			
225			
226			
227			
228			
229			
230			
231			
232			
233			
234			
235			
236			
237			
238			
239			
240			
241			
242			
243			
244			
245			
246			
247			
248			
249			
250			
251			
252			
253			
254			
255			
256			
257			
258			
259			
260			
261			
262			
263			
264			
265			
266			
267			
268			
269			
270			
271			
272			
273			
274			
275			
276			
277			
278			
279			
280			
281			
282			
283			
284			
285			
286			
287			
288			
289			
290			
291			
292			
293			
294			
295			
296			
297			
298			
299			
300			
301			
302			
303			
304			
305			
306			
307			
308			
309			
310			
311			
312			
313			
314			
315			
316			
317			
318			
319			
320			
321			
322			
323			
324			
325			
326			
327			
328			
329			
330			
331			
332			
333			
334			
335			
336			
337			
338			
339			
340			
341			
342			
343			
344			
345			
346			
347			
348			
349			
350			
351			
352			
353			
354			
355			
356			
357			
358			
359			
360			
361			
362			
363			
364			
365			
366			
367			
368			
369			
370			
371			
372			
373			
374			
375			
376			
377			
378			
379			
380			
381			
382			
383			
384			
385			
386			
387			
388			
389			
390			
391			
392			
393			
394			
395			
396			
397			
398			
399			
400			
401			
402			
403			
404			
405			
406			
407			
408			
409			
410			
411			
412			
413			
414			
415			
416			
417			
418			
419			
420			
421			
422			
423			
424			
425			
426			
427			
428			
429			
430			
431			
432			
433			
434			
435			
436			
437			
438			
439			
440			
441			
442			
443			
444			
445			
446			
447			
448			
449			
450			
451			
452			
453			
454			
455			
456			
457			
458			
459			
460			
461			
462			
463			
464			
465			
466			
467			
468			
469			
470			
471			
472			
473			
474			
475			
476			
477			
478			
479			
480			
481			
482			
483			
484			
485			
486			
487			
488			
489			
490			
491			
492			
493			
494			
495			
496			
497			
498			
499			
500			
501			
502			
503			
504			
505			
506			
507			
508			
509			
510			
511			
512			
513			
514			
515			
516			
517			
518			
519			
520			
521			
522			
523			
524			
525			
526			
527			
528			
529			
530			
531			
532			
533			
534			
535			
536			
537			
538			
539			
540			
541			
542			
543			
544			
545			
546			
547			
548			
549			
550			
551			
552			
553			
554			
555			
556			
557			
558			
559			
560			
561			
562			
563			
564			
565			
566			
567			
568			
569			
570			
571			
572			
573			
574			
575			
576			
577			
578			
579			
580			
581			
582			
583			
584			
585			
586			
587			
588			
589			
590			
591			
592			
593			
594			
595			
596			
597			
598			
599			
600			
601			
602			
603			
604			
605			
606			
607			
608			
609			
610			
611			
612			
613			
614			
615			
616			
617			
618			
619			
620			
621			
622			
623			
624			
625			
626			
627			
628			
629			
630			
631			
632			
633			
634			
635			
636			
637			
638			
639			
640			
641			
642			
643			
644			
645			
646			
647			
648			
649			
650			
651			
652			
653			
654			
655			
656			
657			
658			
659			
660			
661			
662			
663			
664			
665			
666			
667			
668			
669			
670			
671			
672			
673			
674			
675			
676			
677			
678			
679			
680			
681			
682			
683			
684			
685			
686			
687			
688			
689			
690			
691			
692			
693			
694			
695			
696			
697			
698			
699			
700			
701			
702			
703			
704			
705			
706			
707			
708			
709			
710			
711			
712			
713			
714			
715			
716			
717			
718			
719			
720			
721			
722			
723			
724			
725			
726			
727			
728			
729			
730			
731			
732			
733			
734			
735			
736			
737			
738			
739			
740			
741			
742			
743			
744			
745			
746			
747			
748			
749			
750			
751			
752			
753			
754			
755			
756			
757			
758			
759			
760			
761			
762			
763			
764			
765			
766			
767			
768			
769			
770			
771			
772			
773			
774			
775			
776			
777			
778			
779			
780			
781			
782			
783			
784			
785			
786			
787			
788			
789			
790			
791			
792			
793			
794			
795			
796			
797			
798			
799			
800			
801			
802			
803			
804			
805			
806			
807			
808			
809			
810			
811			
812			
813			
814			
815			
816			
817			
818			
819			
820			
821			
822			
823			
824			
825			
826			
827			
828			
829			
830			
831			
832			
833			
834			
835			
836			
837			
838			
839			
840			
841			
842			
843			
844			
845			
846			
847			
848			
849			
850			
851			
852			
853			
854			
855			
856			
857			
858			
859			
860			
861			
862			
863			
864			
865			
866			
867			
868			
869			
870			
871			
872			
873			
874			
875			
876			
877			
878			
879			
880			
881			
882			
883			
884			
885			
886			
887			
888			
889			
890			
891			
892			
893			
894			
895			
896			
897			
898			
899			
900			
901			
902			
903			
904			
905			
906			
907			
908			
909			
910			
911			
912			
913			
914			
915			
916			
917			
918			
919			
920			
921			
922			
923			
924			
925			
926			
927			
928			
929			
930			
931			
932			
933			
934			
935			
936			
937			
938			
939			
940			
941			
942			
943			
944			
945			
946			
947			
948			
949			
950			
951			
952			
953			
954			
955			
956			
957			
958			
959			
960			
961			
962			
963			
964			
965			
966			
967			
968			
969			
970			
971			
972			
973			
974			
975			
976			
977			
978			
979			
980			
981			
982			
983			
984			
985			
986			
987			
988			
989			
990			
991			
992			
993			
994			
995			
996			
997			
998			
999			
1000			
1001			
1002			
1003			
1004			
1005			
1006			
1007			
1008			
1009			
1010			
1011			
1012			
1013			
1014			
1015			
1016			
1017			
1018			
1019			
1020			
1021			
1022			
1023			
1024			
1025			
1026			
1027			
1028			

科目名	機能看護論Ⅲ (日常生活援助:食事・排泄)		担当教員		
開講年次	1年次前期	単位数	1	時間数	15
テキスト	基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ：医学書院				
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院				
学習のねらい	・食えることは人間の基本的ニーズであり、人が生命を維持するうえで必要不可欠な 行為である。なんらかな原因により食事摂取困難になったとき、人は生命の危機に直面する。人間の日常生活に必要な食事・栄養の意義を理解し、その援助技術を学ぶ。 ・ふだん意識することなく行っている排泄行為は、日常的な行為であり人間がもつ自然の欲求のひとつである。排泄という行為は最も人に見られたくない極めて個人的な行為でもある。なんらかな原因によって排泄を他人に委ねなければならない状況が生じたとき、「情けない」「自分は生きている価値のない人間になってしまった」などの思いを描くことが多い。また、排泄の援助は対象が最も頼みにくい援助のひとつであるといわれている。排泄の援助を受ける対象に対して、羞恥心に配慮した排泄の援助技術を学ぶ。				
学習目標	1. 栄養や食事を支える消化・吸収のメカニズムの理解や、環境、行為、味わいについて理解する。 2. 様々な健康状態にある対象に適した食事内容や方法を理解し、対象に合わせた必要な援助を理解する。 3. 安全に摂取するための食事、満足感が得られるような食事の援助を習得する。 4. 人間の排泄を理解し、対象が健康的な生活を送るために必要な援助方法を習得する。 5. 排泄に影響を及ぼす要因について理解し、アセスメントできる。 6. 排泄行動に影響を及ぼす要因を理解し、対象に応じた排泄援助を習得する。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1 2 3 4	1.自然排尿および自然排便の基礎知識	1)排泄の意義・メカニズム 2)排泄に関するアセスメント 3)自然排尿・自然排便を阻害する要因 4)自然排尿・自然排便を促す方法			講義演習
	2.排泄の援助	1)便器・尿器を使用したベッド上での排泄援助 および根拠・留意点 2)便器・尿器、ポータブルトイレを用いた排泄援助 3)頻尿と尿失禁 4)排尿困難と尿閉 5)科学的根拠に基づいた安全安楽な排泄援助 (1)床上排泄 (2)ポータブルトイレ (3)グリセリン浣腸 (4)導尿			講義演習 講義演習 G ワーク技術 演習

	学習項目	学習内容	方法
5 6 7	3. 食事の基礎知識	1) 食事・栄養の意義 2) 摂食・嚥下のメカニズム 3) 食事と栄養に関するアセスメント (1) 栄養状態 (2) 食事摂取内容 (3) 水分摂取と排泄	講義演習
	4. 食事の援助	1) 食事を妨げる要因 2) 食事形態の実際 3) 科学的根拠に基づいた安全安楽な栄養と食事への援助 (1) 経口摂取できる対象への食事援助 (2) 視力障害のある対象への食事援助 (3) 嚥下障害のある対象への食事援助 (4) 経口摂取できない対象への食事援助 (経管栄養・固定法と確認方法) (1) 口腔ケア（トロミをつけて体験）	講義演習 講義演習 G ワーク技術 演習
8	学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法		出席状況 技術試験 授業態度 学科試験	
評価区分		学科試験 60% 技術試験 40%	

科目名	機能看護論Ⅳ（フィジカルアセスメント）		担当教員		
開講年次	1年 前期	単位数	1	時間数	30
テキスト	基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ：医学書院				
関連科目 参考図書	看護がみえる③ フィジカルアセスメント：MEDIC MEDIA 新訂版 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス：インターメディカ フィジカルアセスメントガイドブック 第2版：医学書院				
学習のねらい	フィジカルアセスメントは「Head to Toe（頭から爪先まで）」を系統的にみることで、患者の状態を具体的に把握することができる身体診査技術である。しかし、フィジカルアセスメントはヘルスアセスメントの中に含まれており、身体的なデータを収集・査定することのみでなく、人間の全体像をとらえるために心理的・社会的アセスメントを加えることで対象者を全人的・多角的にとらえられるようになる。これが看護の視点から見たアセスメントと言える。 フィジカルアセスメント力を育てるためには、フィジカルイグザミネーションの手順や方法だけでなく、思考力や知識が備わっていなければならない。そのため、事例等を用いながら基礎的知識や技術、アセスメント能力を習得し、報告の仕方や報告を学ぶことができる。その際、報告をどのように行えばいいのか、系統的に報告することの大切さを学ぶことができる。				
学習目標	1. ヘルスアセスメントの意義・目的を知り、看護におけるヘルスアセスメントの重要性を理解する。 2. ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関連を理解し、フィジカルイグザミネーションの手順や方法だけでなく、思考や知識を学ぶ。 3. 系統別フィジカルアセスメントの基礎的知識と技術を学ぶ。 4. フィジカルイグザミネーションやバイタルサイン測定したことをアセスメントし、報告の方法を学ぶ。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1.	1. ヘルスアセスメントとは	1) ヘルスアセスメントが持つ意味 2) ヘルスアセスメントにおける観察 3) ヘルスアセスメントにおける重要な視点			講義
	2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント	1) 問診（面接）の技術 2) 健康歴聴取の目的 3) 健康歴聴取の実際 4) セルフケア能力のアセスメント 5) 情報の整理			講義
	3. 心理・社会状態のアセスメント	1) 心理的側面のアセスメント (1) 意識状態のアセスメント (2) ストレスとその対処法に関するアセスメント (3) 自己についての知覚に関するアセスメント 2) 社会的側面のアセスメント			
2.	1. 全体の概観	1) フィジカルアセスメントに必要な技術			講義

3.		(1) 視診 (2) 触診 (3) 聴診 (4) 打診 2) 全身状態・全体印象の把握 3) バイタルサインの観察とアセスメント (1) 体温 (2) 脈拍 (3) 呼吸 (4) 血圧 (5) 意識 4) 計測 (1) 身長 (2) 体重 (3) 皮下脂肪厚 (4) 腹囲	演習
4.	1. 系統別フィジカルアセスメント	1) 呼吸器系のフィジカルアセスメント (1) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 呼吸器系の基礎知識 (3) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際	講義
5.		2) 循環器系のフィジカルアセスメント (1) 循環器系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 循環器系の基礎知識 (3) 循環器系のフィジカルアセスメントの実際	講義
6.		1) 事例を用いて患者の状態を把握しアセスメントを行い、看護を考えることができる。 2) 実践したことをもとに報告することができる。	演習
7.		1) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメント (1) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメントの目的 (2) 乳房・腋窩の基礎知識 (3) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメントの実際 2) 腹部のフィジカルアセスメント (1) 腹部のフィジカルアセスメントの目的 (2) 腹部の基礎知識 (3) 腹部のフィジカルアセスメントの実際	講義
8.		1) 事例を用いて患者の状態を把握しアセスメントを行い、看護を考える 2) 実践したことをもとに報告することができる。	演習
9.		1) 筋・骨格系のフィジカルアセスメント (1) 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 筋・骨格系の基礎知識 (3) 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際 2) 神経系のフィジカルアセスメント (1) 神経系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 神経系の基礎知識 (3) 神経系のフィジカルアセスメントの実際	
10.		1) 事例を用いて患者の状態を把握しアセスメントを行い、看護を考える	演習

		2) 実践したことをもとに報告することができる。	
11.		1) 頭頸部と感覚器（眼・耳・鼻・口）のフィジカルアセスメント (1) 神経系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 神経系の基礎知識 (3) 神経系のフィジカルアセスメントの実際 2) 外皮系（皮膚・爪）のフィジカルアセスメント (1) 外皮系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 外皮系の基礎知識 (3) 外皮系のフィジカルアセスメントの実際	
12.		1) 事例を用いて患者の状態を把握しアセスメントを行い、看護を考える 2) 実践したことをもとに報告することができる。	演習
13. 14.	技術評価	技術の習得の確認を行い、自己の課題を明確にする。 （体温・脈拍・呼吸・血圧・呼吸音・腹部の聴診・意識レベル） ・自分で行ったフィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメントを報告することができる。	技術評価
15.	学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法		学科試験 技術試験 出席状況 授業態度	
評価区分		学科試験 60% 技術試験 40%	

授業科目名		機能看護学Ⅴ (診療の補助技術① 与薬技術)		担当教員			
開講年次		1 年前期		単位数	1	時間数	20
テキスト		基礎看護学 医学書院					
参考文献							
関連科目		薬理学 薬物療法と看護					
目標		1. 薬物の基礎知識を想起し、薬物療法と看護の関連を理解できる。 2. 与薬のための法的根拠を理解できる。 3. 発達段階に応じた与薬法についての基本的知識、技術、態度を習得できる。 4. 多様な場で自己管理ができる支援方法を理解できる。					
回数	学習項目		学習内容			方法	
1 2	1. 医薬品の法的規制 (保健師助産師看護師法 37 条) 2. 薬物の投与経路 3. 与薬のために援助技術		紙上事例を用いた学習 1) 与薬の指示から実施まで (2 人以上で確認) 2) 正しい薬物投与 与薬法 (計算方法) 3) 与薬における安全管理 4) 感染予防 (医療廃棄物の取り扱い 保管場所) 5) 薬物投与における安全管理 6) 事故発生時の対応;医療安全の確保 に向けた視点 7) リスクマネジメント;医療安全の確保 に向けた取り組み			講義演習	
3 4 5 6 7 8 9 10	2. 与薬方法 発達段階に応じた与薬方法		紙上事例を用いた学習 1) 経口与薬方法：内服、口腔内投与 2) 経皮・外用的与薬方法：塗布、塗擦 貼用法 3) 点鼻、点眼 点耳 4) 坐薬挿入法;直腸内 5) 注射法;皮内注射法 皮下注射法 筋肉内注射 点滴静脈内注射 6) 高カロリー輸液法と 中心静脈栄養の管理 7) 輸血法と輸血の管理 8) 輸液ポンプ シリンジポンプの操作			講義演習	
評価方法		授業態度 出席状況 学科試験					
評価区分		学科試験 100%					

授業科目名	機能看護論VI (診療の補助技術②)	担当教員			
開講年次	1 年前期	単位数	1	時間数	15
テキスト	基礎看護学②基礎看護技術Ⅱ：医学書院 臨床看護学総論：医学書院				
参考文献・ 関連科目	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院 看護技術がみえる①・②：MEDIC MEDIA				
学習のねらい	・看護師は医師の行う検査や治療行為の介助を行うとともに、その指示や了解のもとに検査や治療に関わるため検査や治療は安全に行われ、正確な結果を得る必要がある。そのためには安全・安楽・正確に実施できる技術を学ぶ。 ・疾病の治療・予防のひとつである与薬・注射は、医師の指示のもとに行われるため、看護師は医療専門職としての職業倫理の観点から、対象者の安全・安楽を確保するための確かな知識・技術・倫理的な態度を兼ね備える必要がある。対象を理解し、看護実践に必要な基本技術を学ぶ。				
学習目標	1. 診療に伴う基本的援助技術と診療を受ける対象を理解し、看護の方法が理解できる。 2. 検体検査・生体検査の意義と目的、これらにおける看護の実践が理解できる。 3. 医療現場にあふれている多くの医療機器を安全に使用できるよう、機器の基本的な仕組み、使用方法や管理について理解できる。 4. 治療・処置の意義と看護者の役割を理解する。 5. 対象者の身体侵襲に配慮した援助を考え、検査・治療における看護技術を実施できる。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1. 診療と看護 (診察・診察時の看護)	1) 診療における看護師の役割と倫理 2) 診察時の看護 3) 検体検査、生体検査、生体情報モニタリング 4) 各検査の目的と看護 (1) 尿検査 (2) 便検査 (3) 喀痰検査 (4) X線検査 (5) CT・MRI 検査 (6) 内視鏡検査 (7) 超音波検査 (8) 肺機能検査 (9) 核医学検査 5) 各検査のメカニズムと結果の示す意味			講義 技術演習
2 3	2. 血液検査	1) 血液検査の種類とその目的 (1) 静脈血採血 (2) 動脈血採血 (3) 簡易血糖測定 2) 静脈血採血と看護 (1) 物品の準備と採血の実際 (2) 血液検体の取り扱い方 ①真空管採血による採取方法と手順 ②注射器採血による採取方法と手順 技術演習：血糖測定・静脈血採血			講義 技術演習
4～6	3. 呼吸・循環を整える	1) 酸素吸入法の基礎知識 (1) 酸素吸入療法の目的と種類			講義 技術演習

回数	学習項目	学習内容	方法
		(2) 使用器具の種類と特徴・援助方法 ①中央配管 ②酸素ボンベ ③酸素マスク ④鼻カニューレ 2) 酸素吸入療法の援助の実際 (1) 中央配管方式による方法 (2) 酸素ボンベの取り扱い 3) 排痰ケア (1) 体位ドレナージ (2) 徒手呼吸補助 (3) 咳嗽 (4) ハフティング 4) 吸入(薬液噴霧法) (1) ネブライザーの目的と適応 (2) ネブライザー治療時の看護 5) 一時的吸引の援助の実際 (1) 吸引の目的と適応 ①口腔吸引 ②鼻腔吸引 ③気管内吸引	講義 技術演習
7	4. 包帯法	1) 包帯の目的 2) 包帯使用時の原則と方法 環行帯 縲施帯 麦穂帯 三角巾	講義 技術演習
8	5. 学科評価	単位認定試験	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度	
評価区分		学科試験 100%	

授業科目名	健康支援	担当教員	
開講年次	1 年次前期	単位数	1 単位
テキスト	看護学概論、成人看護学概論（医学書院）	時間数	30
参考文献	地域・在宅看護論の基礎、厚労省 HP（白書他）、総務省 HP（統計）	他	
関連科目	看護関係法令（医学書院）		
学習のねらい	地域で暮らす対象や家族を取り巻く環境を理解し、対象の健康保持・増進、疾病予防に向けた看護師の役割が理解できることがねらいである。		
目標	1. 地域で暮らす対象や家族を取り巻く環境を理解する 2. 対象の健康保持・増進、疾病予防に向けた看護師の役割が理解できる 3. 対象を生活者としてとらえ、健康状態・対象の特性を把握し今後の状態予測をし、セルフマネジメントができる支援方法を習得する 4. 対象や家族が望む生き方や暮らし方を尊重し社会資源の活用が理解できる 5. 他職種連携・地域連携の必要性が理解できる		
回数	学習項目	学習内容	方法
1	1. 健康の基礎知識	1) 健康の定義 WHO ウエルネス ヘルスプロモーションと健康政策	講義
2	2. 健康支援の基礎理論	1) 健康行動に必要な理論	講義演習
3		①健康行動理論 ②健康信念モデル（ヘルスビリーフモデル） ③自己効力理論 ④セルフケア理論 ⑤危機理論 ⑥ストレスと対処 ⑦生きる力と強さに着目したヘルスプロモーション レジリエンス、リカバリー ストレングス エンパワーメント	
		2) ヘルスリテラシー 3) ヘルスコミュニケーション	
4	3. ライフサイクルにおける健康教育	1) ライフサイクルにおける発達課題と健康課題 小児、成人、高齢者、女性、精神	講義演習
5		2) 健康づくりの取り組み 食事 運動 活動と休息 排泄 清潔 歯・口腔	
6	4. 対象の特徴を理解した健康課題と管理	1) 学生本人と家族の健康課題と管理	演習（発表含）
7		2) 各発達段階に応じた事例学習	
8		(1) 健康増進による看護師の役割	
9		①健康管理能力の把握の視点	
10		②対象の持てる力を引き出す支援	
11		③セルフマネジメント	
12		④多職種連携・地域連携 成人 生活習慣病 独居高齢者の在宅生活継続支援 周産期における支援 小児 アレルギー性疾患 抑うつ障害	
		3) 学童期の健康課題と管理（学校保健）	講義演習
		4) 働く人の健康課題と管理（産業保健）	地域に出向き学

13 14	5. 地域づくりと健康	1) 行政機関 産業保健分野 地域診断 母子保健活動	習する。 (または、 課題学習)
15	6. 学科評価・まとめ	単位認定試験	
評価方法		授業の出席時間および授業態度、授業中に提示した課題	筆記試験
評価区分		学科試験 100%	

授業科目名	健康回復支援Ⅰ（急性期看護）				
開講年次	1年 前期	単位数	1	時間数	20
テキスト	臨床外科看護総論、臨床外科看護各論 医学書院 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ：医学書院				
参考文献 関係科目	1. 全書 経過別成人② 周術期看護 2. よくわかる周手術期看護 Gakken 3. 薬理学 薬物療法と看護 人体の構造と機能 6. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院 7. 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 8. JRC 蘇生ガイドライン 2020：一般社団法人 日本蘇生協議会				
学習のねらい	・生命の危機状態にある時期を急性期という。突然の事故や発病、持病の急速な悪化が起こり、手術を受ける患者もいる。そのため周術期にある対象の理解と発達段階を理解し、看護過程の展開を通し、回復過程に応じた看護の実践を理解する。 ・外科的侵襲からの生体反応の観察や、対象者の持てる力を最大限に引き出せるように回復にむけた早期離床、合併症予防といった看護介入を理解する。 ・医療現場のなかで有病者に最も近く存在する看護師には、救命救急の処置を必要とする対象に遭遇する機会が他の職種より多いと思われ、迅速で適切な対応が求められる。救命救急の目的はどのような状況にあっても、合併症や障害が最小になるように努め、尊い命を救うことである。そのために、生命（健康）の危機的状況下においても冷静に対応するための基礎的知識を理解し、生命維持に必要な一次救命処置（BLS 含む）にする知識・技術を学ぶ。また、これらの援助においては、対象やその家族への精神的側面への配慮も必要となるため、説明や指導技術も視野に入れた看護の役割を学習する。				
目標	1. 生命（健康）危機状況のある対象の状況がわかる。 2. 手術療法を受ける対象の生体反応と周術期の看護、回復過程の看護を理解できる。 3. 集中治療を受ける患者の看護や特殊な術式、低侵襲手術を受ける患者の看護が理解できる。 4. 主対象の生命の安全を確保するために、救急時に必要な救急蘇生法に関する基礎知識と救命処置の方法がわかる。 5. 生命（健康）危機状況における呼吸・循環を整える（一次救命処置・AED 使用）技術を身につける。要な術式における周手術各期に必要な看護を理解できる。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1.	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 ①周術期看護の概論 ②外科医療の基	1. 健康の急激な破綻 2. 急性期にある人の看護（アギュララとメズイックモデル） 3. 外科看護の役割と看護の要点（インフォームドコンセント） 4. 外科手術における栄養管理 5. 手術侵襲と生体反応（サイトカイン、ムーアの分類）			講義、

	基礎知識（生体侵襲）	6. 手術後感染 (術野感染=SSI・術野外感染=CRBSI、VAP、CAUTI)	
2.	①周術期における全身管理と看護	1. 麻酔の種類と管理、合併症 2. 呼吸管理 3. 体液管理 4. 栄養管理 5. 自己血輸血 6. 緩和医療	講義
3. 4. 5. 6.	①術前～術後の看護	1. 術前患者の看護（日帰り手術～手術当日） 2. 術中患者の看護 3. 術後患者の看護（術後合併症の理解） 4. 手術後の患者の看護・観察の視点について事例をもとに考える	講義・演習 グループワーク (看護計画立案) 事例を用いての学習
7.	① 集中治療を受ける患者の看護を理解する	1. 集中治療を受ける患者の看護 1) 集中治療・看護の概念と役割 2) 集中治療における看護の実際 ① 集中治療中の患者の看護 ② 回復に向けた看護 2. 特殊な術式（最先端医療、内視鏡ガイド下の治療）、低侵襲手術を受ける患者の看護	講義 演習
8. 9.	①救命救急処置技術	1. 救命救急処置の基礎知識 1) 救急看護の概念 2) 心身の緊急反応とその理解 3) 救急対応の考え方 4) 急変時における初期対応 5) トリアージ 2. 救急処置法の原則と実際 1) 救急処置の分類と範囲 2) 心肺蘇生と一時救命処置 ①気道確保 ②人工呼吸 ③胸骨圧迫 ④AED 3. 止血法 4. 院内急変時の対応	講義 演習（事例を用いて）
10.	学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法		学科試験 技術試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学科試験 60% 技術試験 40%	

授業科目名	健康回復支援Ⅱ (リハビリテーション看護)		担当講師		
開講年次	2年	単位数	1	時間数	15時間
テキスト	リハビリテーション看護（医学書院）				
参考文献	1. リハビリテーション看護 ナーシンググラフィカ メディカ出版				
関連科目	2. 解剖生理学、看護関係法令、地域・在宅看護論（医学書院）				
学習のねらい	広義には、各発達課題における課題解決において、また各健康障害の段階にリハビリテーションがある。また、狭義には健康回復過程にある急性期からの回復過程において、特に運動器においてリハビリテーション期がある。そして、対象の持てる力を支援する看護はリハビリテーション（再構築）看護でもある。 広義・狭義のリハビリテーションについて、その持てる力を支援する看護を学ぶのがねらいである。				
目標	1. リハビリテーションの目的や考え方について学び、リハビリテーション看護における持てる力を支援する看護を理解する。 2. リハビリテーションの領域や種類・多職種との連携について理解する。 3. 多様な場にある生活の再構築をめざしたリハビリテーション看護（疾病の予防・健康増進・健康回復）とそのセルフケアの支援について理解する。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1.	リハビリテーションとは何か	① リハビリテーションの定義と考え方 ② リハビリテーションの目的と対象とその家族の持てる力支援する看護 ③ リハビリテーションの領域（教育的・医学的・社会的・職業的） ④ リハビリテーションにおける主要概念： （ICF,ADL,QOL,ノーマライゼーション、エンパワメント、コーピング、自己効力、レジリエンス、等			講義・演習
2.	リハビリテーションにおける倫理、法律、施策	① 障がい者と障がい者の権利 ② 障がい者を支える法律・サービス			講義・演習
	チームアプローチと看護の役割	① 多職種によるチームアプローチ：情報共有 ② 多職種および対象とその家族における看護師の役割			講義・演習
3.	心理社会的なアセスメントと発達段階にあるリハビリテーション	① 自己概念と障がい受容 ② 障がいのある対象とその家族（セルフケア、自己効力、エンパワメント）の看護 ③ 心に障がいのある対象とその家族のリハビリテーション看護 ④ 発達段階にあるリハビリテーション			講義・演習
4.	多様な場にある	① 呼吸機能に障がいのある対象とその家族の看護			講義・演習

5.	生活の再構築への アセスメント とセルフケア支 援	② 循環機能に障がいのある対象とその家族の看護	
6.		③ 運動機能に障がいのある対象とその家族の看護	
7.	評価	④ アセスメントツールとスケール： 事例 脳血管障がい・摂食嚥下障がい・排尿障がい・排便障がいの評価 ※ 事例はマトリックスで検討 単位認定試験	
評価方法		筆記テスト：1時間	
評価区分		100点（筆記テスト＋演習＋出席状況）	

授業科目名	健康回復支援Ⅲ (その人らしく最期を迎えるための看護)				
開講年次	2 年	単位数	1	時間数	15
テキスト	緩和ケア、看護倫理 (医学書院)				
参考文献 関係科目	1. 緩和ケア 青海社 2. https://www.mhlw.go.jp/toukei/manual/dl/manual_r03.pdf (厚労省 HP 死亡診断書) 3. https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/16/dl/all.pdf (H28 年厚生労働白書) 4. 看取りケア 宮下光令編 南江堂 5. 看護実践にいかすエンド・オブ・ライフケア 長江弘子編 日本看護協会出版会 6. 緩和ケア ナーシンググラフィカ メディカ出版 地域・在宅看護論 機能看護論 看護学概論 看護慣例法規 (医学書院) 他				
学習のねらい	2022 年現在、日本は少子高齢多死社会となった。2025 年にはベビーブーマーと言われている人々が後期高齢者となる。最期をどこで迎えるか、どのように看取るかが様々な場において問われている。そうした社会の変化を理解し、対象の持てる力を支援しその人らしく最期を迎えるための看護について学ぶのがねらいである。				
目標	1. 様々な場で、終末期にある対象とその家族への看護について理解できる。 2. 死の受容の過程およびその対象への看護について理解できる。 3. 持てる力を支援し、その人らしく最期を迎える看護について理解できる。 4. 死亡時の看護について理解できる。				
回数	学習項目	学習内容	方法		
1. 2. 3. 4.	様々な場で、終末期にある対象の理解 緩和ケア エンドオブライフケア	1) 終末期 (ターミナルケア)・緩和ケア・ホスピスケア・サポータティブケア・エンドオブライフケア 等の意味 2) 生活の延長線上に死までの生＝生きるがある 対象の持てる力を支援し、最期を看取る看護 ACP と倫理的課題：意思決定支援 地域ケアシステムとエンドオブライフケア 3) 各ターミナルステージにおける対象とその家族のケア (ターミナル前期・中期・後期・死亡直前期) 治療が望めない時期から死亡時又は死別後までのケア 4) 身体的・精神的・社会的苦痛、スピリチュアルペインなどの全人的苦痛の緩和 5) 抗がん治療の早期から適応され、死別後の家族のケアまでを含む。⇒がん性疼痛の緩和ケア 6) WHO がん疼痛ガイドライン 7) 日本人が考える「望ましい死」とは 8) 子どもと家族の死の捉え方： WHO 小児緩和ケアの定義、	講義・演習		

5.	その人らしく最	子どもを看取る家族への支援（親と死別する子どもへの支援）	
6.	期を迎える看護	9) 病みの軌跡とエンドオブライフケア 事例：こどもと AYA 世代、 事例：心不全の末期 事例：腎不全の末期 等	
7.	死亡時の看護	10) 臨死期にみられる徴候 全身状態を評価：(Palliative Performance Scale) PPS 予後予測スケール：(Palliative Prognostic Index) PPI 11) (Do not Resuscitation) DNR 12) グリーフケア 13) 臨終時の看護・家族ケア 14) 臨死期の対応（家族の参加、家族心理） 15) 在宅でその人らしく最期を迎える看護 （自宅で死を迎える意味） 16) 死後の処置（エンゼルケア） 17) デスカンファレンス・・・看護師への支援	
8	学科試験	単位認定試験	
評価方法		筆記テスト	
評価区分		100 点（筆記テスト＋演習＋出席状況）	

授業科目名	薬物療法と看護		担当講師		
開講年次	1 年次		単位数	1	時間数 20
テキスト	基礎看護学				
参考文献	薬理学 医学書院				
関連科目	機能看護論IV与薬の技術				
学習のねらい	薬物療法における看護職者の役割を理解し、必要な知識を学び、多様な場での対象と家族の意思決定を尊重し継続した支援が大切であると理解できることがねらいである。				
目標	1. 薬物療法における看護職者の役割を理解する。 2. 健康状態・対象の特徴を理解し服薬における看護の基礎的知識・技術・態度を習得することができる。 3. 事例を通じて薬物管理ができるように服薬指導ができる。 4. さまざまな場での対象と家族の意思決定を尊重し継続した支援方法が理解できる。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1. 薬物療法の基礎的知識	紙上事例を用いた学習 1) 薬物療法に必要な看護の基本的知識 ①薬物動態と相互作用 ②薬物の剤形とその特徴 ③薬物の体内動態 ④ハイリスク患者への看護			講義演習
2	2. 対象の特徴を理解した服薬管理	1) 薬効が対象に影響を与える因子と看護 服薬管理に向けた指導 ①妊産婦 ②小児 ③高齢者			講義演習
3					
4	3. 服薬支援 社会復帰に向けた自己管理 服薬管理	紙上事例を用いた学習 糖尿病、心不全、統合失調症、認知症 1) 薬物療法における看護師の役割 ①薬に対する対応能力 セルフケア能力、コンプライアンス アドヒアランス、コンコーダンス) ②服薬自己管理能力の把握の視点 ③対象の持てる力を引き出す援助 ④自己管理困難者への管理法 ⑤在宅での服薬管理の問題と生活への影響の理解 ⑥在宅療養者が主体的に薬物療法できる援助の視点の理解			講義演習
5					
6					
7					
8	4. 事例患者に応じた薬物管理に向けた薬物管理のロールプレイ	1. グループワーク ロールプレイに向けての指導案作成			演習
9	5. 薬物管理のロールプレイ	1. 指導案を作成しロールプレイする			講義演習

10	6. 薬の安全管理 メディケーションエラーについて	ロールプレイを実施した後の看護評価 課題の明確化 1. メディケーションエラーを防ぐ ポイントについて ・ 針刺し ・ 抗がん剤 ・ 誤薬 ・ 与薬 など	講義演習
評価方法		授業の出席時間および授業態度、授業中の提示した課題、筆記試験	
評価区分		筆記試験 100%	

授業科目名		医療安全	担当教員		
開講年次	1 年	単位数	1 単位	時間数	15 時間
テキスト	医療安全(医学書院)				
参考図書・関連科目	千葉県看護協会 HP：看護・医療における安全対策：医療安全シリーズ				
学習のねらい	人は日常生活でもしばしば間違いをおかすが、医療現場ではわずかな間違いでも患者の生命を脅かしかねない。「人は間違いをおかす」を前提に、医療事故の防止・医療安全につなげる看護について学ぶ。				
目標	1.医療安全概論、リスクマネジメント、ヒューマンエラーについて理解を深め 事故を分析し、発生要因と防止策を考察する 2.間違いの早期発見や事故の未然防止に努めるために、チーム医療多職種間の コミュニケーションの重要性を理解する 3.医療、看護行為、医療器具、医薬品、患者に存在する危険を認識する能力をもつ 重要性を把握し、安全管理の必要性が理解できる 4.医療サービスを利用している場で対象の特性に応じてどのような事故がおこりやす いか考え対策を考えることができる。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1. 医療安全の概念 事後防止の考え方 2. 医療安全と組織としての取 り組み 3. 医療安全に関する法定規定	1) 医療安全を学ぶことの大切さ (1) 人は間違いをおかす存在である (2) (2)意識状態の変動と医療安全を 学ぶ ことの意義 (3) 人間の 3 つの行動モデルと医療 安全を学ぶことの意義 (4) 看護職を選ぶことの重さと安全 努力の責務 (5) 医療におけるリスクマネジメン トの考え方の理解 (6) ヒヤリハット・事故の事例分析の 意義(ハインリッヒの法則) 1) 厚生労働省の取り組み 2) 日本看護協会の取り組み			講義
2	4. 医療事故と看護業務	1) 対象者の特徴を踏まえて起こりやす い事故対策を考える (1) 看護事故の構造 (2) 看護事故防止の考え方 2) 医療事件事例 (1) チューブ管理上のトラブルに			PBL:発表(演習) 文献抄読発表を SOAP 形式でレ ポートする
3					
4					

		による事故 (2) 転倒・転落事故 (3) 誤嚥・窒息・異食事故 (4) 入浴中の事故 (5) 患者誤認事故 3) 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策 (1) 針刺し事故 (2) 職業感染事故 (3) 抗がん剤の曝露事故 (4) 放射線被曝事故 (5) 院内・訪問看護)における暴力事故 4) KYT(危険予知訓練)の実践	
5	5. 医療安全とコミュニケーション	1) 報告・記録 (1) 事故防止のための他職種とのコミュニケーション：ISBARC (2) 記録：S 主観・O 客観・A 考察・P 計画を明確に記載し、正確な情報の記録 (3) インシデント・アクシデントレポート 1) リスクマネジメント 2) セフティーマネジメント	演習
6 7	6.	11 月医療安全大会参加 筆記試験（45 分間）	11 月医療安全大会参加 4 時間
評価方法		課題と学科試験	
評価区分		100%	

授業科目	看護と倫理	担当講師			
開講年次	1 年次	単位数	1	時間数	20
テキスト	看護倫理（医学書院）				
関連科目	看護の統合と実践Ⅰ、看護学概論、地域・在宅看護論 他				
参考文献	医療倫理学の ABC：服部健司他編著。メヂカルフレンド社 生物と生命倫理の基本ノート：西沢いづみ著、kinmodo 看護に生かすバイオエシックス：木村利人、Gakken 看護ケアの倫理学：高崎絹子、放送大学 入門・医療倫理Ⅰ：赤林朗、勁草書房 他				
学習のねらい	保健医療福祉にある倫理的課題について学ぶ。また、専門職者として倫理的感受性を持ち、倫理的推論をし何が課題であるか思考することが、態度表明し・実現（行動を起こす）につながることで、それは看護実践において、より良い看護への取り組み姿勢となることを学ぶのがねらいである。				
学習目標	1. 生命倫理の概念の変遷をについて理解する。 2. 高等教育において倫理について学ぶ意義を理解する。 3. 看護における倫理および職能団体による倫理綱領について理解する。 4. 看護職者に求められる職業倫理を理解する。 5. 医療倫理にて示される原則や課題解決手法について理解する。 6. 医療安全を含め、看護実践におけるあらゆる場面で、倫理が問われること理解する。 7. 発達段階・健康障害の種類にある倫理的問題とその対応について理解する。				
回	学習項目	学習内容	方法 等		
1.	生命倫理の概念の変遷	生命倫理の概念：広義および狭義（人工受精等生命の誕生、遺伝子治療、臓器移植、等）医療に求められている倫理について理解する）	講義		
2.	専門職者に求められる倫理・職業倫理	看護職能団体（日本看護協会・国際看護協会の提唱する倫理綱領とその提唱の意味）が提唱する倫理綱領をととして看護専門職者のあり方について考え、理解する。	講義		
3.	医療倫理	医療倫理の原則として提示される倫理原則について、事例を用い学ぶ。また、医療資源の分配について、その分配基準と正義（公平）について理解する。	講義		
4. 5.	倫理的課題と看護	倫理的感受性を持ち、倫理的推論し何が課題であるか、問題であるかを思考し、態度表明する力・実現（行動を起こす）について理解する。 各発達段階・健康障害の種類にある倫理的課題と看護職者に求められる責務について理解する。	講義・演習		

		胎児期・小児期・成人期・老年期や母性看護、精神看護に関連する倫理的課題（DV*, 虐待、ACP**, 性同一障害に関連する人権侵害等）について学び、看護職者としてのあり方を考える。	
6.	看護倫理	看護倫理に関連する文献学習：看護専門職者としての態度を形成する 看護倫理としてどのような課題があるか、先行文献・事例から求められる倫理について学ぶ。（看護管理、看護実践、看護研究、等）	講義・演習
7. 8. 9. 10.	課題学習	課題学習：夏休みや平日の某日を活動日とする？ ボランティア活動の体験とその振り返りから、看護専門職者に求められる倫理課題について考える。また、その考えを発表し、共有する。 例： ① 地域のゴミ拾いをボランティア実践し、廃棄物の処理方法や環境保護の意義を考え、環境が健康に及ぼす影響とそこにある倫理的課題を発表する。 ② 動物愛護センターでの動物の世話のボランティアを実践し、生命や人間のエゴについて考え、看護職者としての倫理的課題について考えたことを発表する。 ③ 高齢者施設の傾聴ボランティアを実践し、話を聴くという意味や人間対人間のかかわりが、どのような価値を生み出すか、また倫理的課題について考え発表する。	演習
評価方法：筆記テスト・課題学習等取組態度・			
評価区分：100%			

*DV：domestic violence

**ACP:advance care planning

授業科目名	看護方法論Ⅰ	担当教員			
開講年次	1年次	単位数	1	時間数	30
テキスト	臨床看護総論 医学書院				
参考図書・関連科目	ナイチンゲール看護論・入門 金井一薫 著 ポートフォリオとプロジェクト学習 鈴木敏恵 医学書院 関連科目；看護学概論 看護方法論Ⅱ				
学習のねらい	看護師が患者の身体状況を的確に把握するために、臨床判断を行い、緊急度や重症度を判断し、患者の状態にあった的確な看護ケアを提供できる力の基礎的な能力を学ぶ。この過程で、臨床判断の思考過程「気づき」「解釈する」「反応する」「リフレクション」を身につける。また、生活の質の向上のためにも対象者のもてる力（自然治癒力）がさらに高まるような看護ケアについて学ぶ。				
目標	1. 臨床判断と臨床推論とは何かを理解し、その関係を理解できる 2. 臨床現場で遭遇しやすい事例を通して、臨床判断過程を思考できる 3. 対象のもてる力を支援する考え方を理解できる 4. 問題解決プロセスとコーチングを理解できる 5. 事例を用いて、臨床判断の思考過程や対象者のもてる力を最大限に活かし支援していく看護を考える				
回数	学習項目	学習内容	方法		
1 2 3 4 5	1. 臨床判断	1) 臨床判断 (1) 臨床判断とは (2) 臨床判断の構成概念 (3) 臨床判断のプロセス (4) 看護過程と臨床判断の関連	講義・演習		
		2) 臨床判断の実際 臨床判断の思考過程「気づき」「解釈する」 「反応する」「省察」を臨床現場で遭遇しやすい事例で体験する			
	2. 臨床推論	1) 臨床推論 (1) 臨床推論とは (2) 臨床推論の方法			
	3. もてる力を支援する看護	1) もてる力について ナイチンゲール看護論			
6	4. プロジェクト学習	1) プロジェクト学習 (1) 課題解決プロセスをコーチング (2) 課題解決のセオリーとシートの活用			
7 8	5. 経過記録	1) SOAP 法 2) フォーカス・チャーティング			

9 10 11 12 13 14 15	5. カンファレンスの活用方法 6. 看護実践	1) カンファレンスの意義と開催方法 1) 事例をもとに、臨床判断の思考過程 対象者のもてる力を最大限に活かし支援していく看護を考える 単位認定試験	講義・演習
評価方法		授業の出席時間および授業態度 授業中に提示した課題 筆記試験	
評価区分		100%	

授業科目名	看護方法論Ⅱ	担当教員			
開講年次	1年次前期	単位数	1	時間数	15
テキスト	基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ：医学書院				
参考図書・関連科目	ゴードン博士の看護診断アセスメント指針：照林社 NANDA-I 看護診断：医学書院 看護がみえる④看護過程の展開：メディックメディカ				
学習のねらい	ゴードンのアセスメント枠組みを使用し、看護過程の展開の基礎を学ぶ。紙上事例を使って、情報から根拠のある看護診断を導き、問題解決をはかるための目標を考える。そこから、具体的援助を考えられるようにする。また、促進準備状態の診断についてももてる力を支援できる看護として積極的に考えられるようにする。				
目標	1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解する。 2. 看護方法論として看護過程を用いることの意義を理解する。 3. 紙上事例をもとに、問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方について理解する。 4. 看護過程の各段階についてその基本的な考え方と実際を理解する。 5. クリティカルパスについて基本的な考え方を理解する。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1. 看護実践における看護過程とは	1) 看護過程の意義について理解する 2) 看護過程の構成要素を理解する 3) クリティカルシンキングについて理解する			講義
2	2. 看護過程における看護診断と看護成果および看護介入について	1) 「NANDA-I 看護診断の定義と分類」の見方と活用方法について			講義
3	3. アセスメントの枠組みとしてゴードンの機能的健康パターンを用いる意味	1) ゴードンの機能的健康パターンについての11の枠組みの意味 2) 情報の整理の仕方 3) アセスメントの考え方			講義
4	4. 全体像の捉え方と関連図作成の意味	1) 関連図の中に対象者の背景、発達段階、病態、治療、看護上の問題をあげ全体像を可視化する方法			講義
5	5. 看護診断・看護計画	1) 看護の優先順位の考え方 2) 看護計画の立案 3) 対象者の強みを活かした計画を考える			講義
	6. 看護の実際・評価	1) 看護実践の後のリフレクションから評価・修正 2) SOAPの記載方法について			講義・演習

6	7. 紙上事例から情報の整理を行い、アセスメントを考える。	1) 閉塞性肺疾患又は脳梗塞の紙上事例から情報の振り分け、アセスメント関連図の書き方を学ぶ	講義・演習
7	8. クリティカルパスの概念	1) クリティカルパスの考え方、活用方法について理解する	試験 50 分
8	9. 筆記試験	単位認定試験	
評価方法		授業の出席時間および授業態度 授業中に提示した課題 筆記試験	
評価区分		100%	

授業科目名	地域・在宅看護論 I (概論)				
開講年次	1 年次	単位数	1	時間数	30
テキスト	地域・在宅看護論 1・2 医学書院				
参考文献 関連科目	地域・在宅看護論①② ナーシンググラフィカ 在宅看護技術 (メジカルフレンド社) 地域療養を支えるケア・在宅療養を支える技術 (メディカ出版) 地域・在宅看護論 医歯薬出版株式会社				
学習のねらい	「地域・在宅看護論」では、人々が地域で暮らし続け、「暮らし」の拠点として「地域」を理解し、そこに住む人々の暮らし方や暮らしに対する思いを理解する。また、地域・在宅看護の変遷を理解し、今日の社会背景を、データから読み解き、地域文化、生活習慣と健康の問題の関連性を理解する。在宅において家族のとらえ方について学び、実際に地域に出向き、五感を通して地域の特徴や暮らしを感じ、その人たちの思い、地域の生活環境が健康に与える影響を学び、地域と暮らしを理解していく。また、家族のとらえ方・家族形態の個別性に応じた支援が必要であることを学ぶ。地域での生活、健康を支えるために地域包括支援センターでの役割や概要を理解し、基礎的な知識をつけていく。				
目標	1. 地域・在宅看護における社会的背景の変遷を理解することができる。 2. 人々が支え合って生きる「暮らし」や、暮らしの拠点としての「地域」を理解する。 3. 地域・在宅看護論の対象者の各ライフステージの特徴と、さまざまな健康レベルにあるため、対象者を理解することが、対象に合った看護実践に結びつくことを理解できる。 4. 在宅において家族のとらえ方や、家族形態の個別性に応じた家族支援の必要性が理解できる。 5. 地域包括支援センターでの役割・概要が理解し、基礎的な考え方を学ぶ。				
回数	学習項目	学習内容	方法		
1	1. 地域・在宅看護の基盤	1. 地域・在宅看護の変遷	講義 演習		
2					
3	2. 人々の暮らしと地域・在宅看護 (地域の人々と生活と健康)	1. 日本の地域・在宅看護活動のはじまり 2. 地域・在宅看護活動の発展 3. 地域・在宅看護活動の制度化 4. 地域包括ケアの発展			
4	3. 暮らしの基盤としての地域を理解する。	1. 人々の暮らしの理解	講義 演習		
5		2. 地域・在宅看護の役割			
6		1) 暮らしを理解する			
7		2) 地域とは			
		3) 地域における生活と健康	講義 演習		
	1) 生活と健康を支える地域・在宅看護	1. 暮らしと地域 (地域とは)			
		2. 暮らしと地域を理解するための考え方			
		3. 地域・在宅看護の定義と位置づけ			
		4. 地域・在宅看護の機能・対象			
		5. 対象を理解するモデル			
		6. 地域ケアシステムと地域共生社会			
		7. 在宅看護の倫理			

8 9 10	2) 地域の特徴や暮らしを知る	1. 市原市の地域を調べてみよう (地域を理解する) 2. 小湊鉄道周辺の人々の実際に調べてみよう	講義 演習
	4. 地域・在宅看護の対象	1. 地域・在宅看護の対象者 2. わが国における家族の現状 (世帯・婚姻・介護)	
	5. 家族を理解する	1. 家族とその変遷 1) 家族の定義、機能、発達段階 2) 健康障害・疾病が家族の及ぼす影響 3) 家族のアセスメント 4) 事例を通して看護の対象者としての家族を考える	
11 12	6. 生活と健康を支えるケア	1. 地域の人々の生活と健康を支えるケア 2. 人々の住まい 3. 医療介護福祉ケア 4. インフォーマルなケア 5. ケアの連携	講義
13 14	7. 地域・在宅看護実践の場と連携	1. さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし 2. おもな地域・在宅看護実践の場 3. 地域・在宅看護に連携	講義
	8. 地域・在宅看護の理念 暮らしの基盤としての地域の理解	1. 地域・在宅の定義と位置づけ 2. 地域・在宅看護の機能 3. 地域・在宅看護の対象 4. 対象を理解するモデル (ICF)	講義
15	9. 地域・在宅看護の倫理	1. 地域共生社会 2. 地域包括ケアシステム (アドボカシー・エンパワーメント他) 3. 地域・在宅看護における倫理的問題 1) 看護と倫理的問題 2) 地域・在宅看護における倫理的問題 3) 倫理的問題の予防と解決策	講義
15	学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法		筆記テスト・出席状況 (授業参加態度)・レポート課題・演習	
評価区分		100%学科試験	

【授業科目】		地域・在宅看護学論 I（概論）	
【対象】 29 回生 1 学年		【単位数】 1 単位 30 時間	
【時間数】 講義 8 時間 （4 コマ）			
【授業期間】 令和 5 年 5 月 29 日～		【担当者】 F	
【授業概要】 1 地域・在宅看護の対象 2 わが国における家族の現状（世帯・婚姻・介護） 3 家族とその変遷 1) 家族の定義、機能、発達段階 2) 健康障害・疾病が家族の及ぼす影響 3) 家族のアセスメント 4) 事例を通して看護の対象者としての家族を考える			
【授業計画】			
回	日時・時限	講義目標	授業形態
1	5 月 29 日（月）3 限	1.地域の多様な特性が、そこに暮らす人々の健康に影響していることを理解する 1) 地域による多様性 2.地域・在宅看護の対象者の各ライフステージの特徴とその多様性を理解する 1) 小児期・成人期・老年期 3.地域・在宅看護の対象者は様々な健康レベルにあることを理解する 1) 健康レベルの多様性	講義
2	6 月 2 日（金）2 限	1.地域・在宅看護の対象者である家族について、基本的な理解ができる 1) わが国における家族の現状（世帯・婚姻・家族） 2) わが国における家族の変遷（家族の形態・世帯の変化・家族の多様化と家族の個人化） 3) 家族の発達課題・家族システム・意思決定支援 4) 地域の特性の理解と看護（事例）	講義 GW
3	6 月 5 日（月）3 限		
4	6 月 9 日（金）2 限	1.対象者を深く理解することが、地域・在宅看護の実践にどのように結びつくのか理解できる 2.自分の家族を通して家族の定義や機能の理解を深める 3.事例の看護を通して家族を 1 つのシステムととらえ、看護の対象として理解することの必要性が理解できる。	演習
試験（日時未定）		【評価方法】 配点 30 点分 授業の出席時間・態度 学科試験（筆記試験）	
【参考書】 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論 2 医学書院 新体系 看護学全書 地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社 看護判断のための気づきとアセスメント 地域・在宅看護 中央法規 在宅療養を支える技術 地域・在宅看護論 地域在宅看護論①ナーシンググラフィカ 在宅療養を支える技術 地域・在宅看護論 地域在宅看護論②ナーシンググラフィカ			

授業科目名	地域・在宅看護論 II（方法論①）				
開講年次	1 年次	単位数	1	時間数	15
テキスト	地域・在宅看護論 1・2 医学書院				
参考文献 関連項目	地域・在宅看護論①② ナーシンググラフィカ 在宅看護技術（メジカルフレンド社） 地域療養を支えるケア・在宅療養を支える技術（メディカ出版）地域・在宅看護論 医 歯薬出版株式会社				
学習のねらい	地域・在宅看護では、地域に暮らす人々の環境が与える影響や、家族の多様な健康 ニーズの中での、看護の役割を理解していく。また、各ライフステージにある人々の 特徴を捉え、対象に応じた看護の役割を理解していく。地域で暮らす人々とその家族 に看護を提供する際に必要な制度を学び、地域・在宅の実践に活かしていく。在宅看 護での問題点を明らかにするために、情報収集し、アセスメントし、推論、もてる力 を生かした看護計画を立案し、療養者・家族の支援方法を修得することができる。 「暮らしの場」で看護を行うために必要な家族を支える援助・安全対策・看護技術 について習得していく。				
目的	1. 地域・在宅看護の場を人々の暮らしと結びつけて考え、さまざまな看護実践の場が あることを理解できる。 2. 地域・在宅看護の実践にあたり、各制度（介護保険制度・訪問看護制度など）を理 解することができる。 3. 地域・在宅看護の特性を踏まえ、情報収集し、アセスメントし、もてる力を活かし た、療養者・家族支援の特徴と展開をすることができる。 4. 認知症を引き起こす疾患や判定・診断について理解し、認知症の症状に応じた療養 者と家族の支援を理解する。 5. 「暮らしの場」での看護にて家族支援・安全対策・看護技術を学ぶ。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1. 地域における暮らしを支え る看護	1. 暮らしを支える地域・在宅看護 2. 暮らしの環境を整える看護 3. 広がる看護の対象と提供方法 4. 地域における家族への看護 5. 地域におけるライフステージに応じた看護 （自己決定権・ACP・自立支援） 6. 地域での暮らしにおけるリスクの理解			講義
2	2. 地域・在宅看護にかかわる	1. 介護保健・医療保険制度			講義
3	制度とその活用	2. 地域・在宅看護にかかわる医療体制 3. 地域保健にかかわる制度 4. 難病の患者に対する医療等の制度 5. 公費負担医療に関する法制度			
	1) 訪問看護制度	1. 訪問看護の歩みから手順・費用・サービス 提供とケアマネジメントと社会資源の活用			
	2) 地域・在宅看護の展開	2. 地域・在宅看護における看護問題 1) 目的・特徴・意義 2) もてる力の着目			

4	3. 事例を用いて展開	2. ケアマネジメントの意義・定期・目的 1) 社会資源とチームケア 2) 介護保険制度のケアマネジメン 3) ICF モデルと地域・在宅看護 4) 地域・在宅看護の展開方法 5) 地域・在宅看護の特徴 6) 情報収集・アセスメント・目標	講義 演習
5		1) 事例を用いて、展開しグループ学習 (事例：慢性疾患療養者：腎不全)	
6			
7	4. 地域・在宅における時期別の看護	1. 健康な時期の看護 2. 外来受診期における看護 3. 入院時の看護 4. 在宅療養準備期（退院前）の看護 5. 在宅療養移行期の看護 6. 在宅療養安定期の看護 7. 急性増悪期の看護 8. 終末の看護 9. 在宅療養終了期の看護	講義
8	学科・科目 まとめ	単位認定試験	
評価方法		筆記テスト・出席状況（授業参加態度）	
評価区分		100%	

授業科目名	地域・在宅看護論Ⅲ（看護技術）				
開講年次	1年次	単位数	1	時間数	15
テキスト	地域・在宅看護論 1・2 医学書院				
参考文献 関連項目	地域・在宅看護論①② ナーシンググラフィカ 在宅看護技術（メジカルフレンド社） 地域療養を支えるケア・技術（メディカ出版）地域・在宅看護論 医歯薬出版株式会社				
学習のねらい	地域・在宅看護の対象者には、すべての年代の多様な健康課題・発達段階に応じた観察力、的確な判断力を身に着ける。在宅看護に必要な日常生活動作・高度な医療を必要とする人の看護技術を学び、暮らしの場における物品の工夫や方法を考える。また、校内演習では、事例を用いて、訪問看護のマナーや援助技術を学ぶ。また、グループワークやロールプレイを取り入れ、主体的に考える力、人に説明する力など、多様なア k 置換を受け入れつつ合意形態する力を養う。				
目的	1. 在宅看護活動を支える基本的なコミュニケーション・術を習得する。 2. 地域・在宅看護に重要な健康問題について学び、在宅看護活動に必要な知識・技術・態度を理解する。 3. 暮らしを支える看護を行うために必要な家族を支える援助について理解することできる。 4. 地域・在宅における暮らしを支えるための日常生活支援と療養者のもてる力を生かしながら機能の維持・向上に向けた看護実践するための基礎的看護技術を身につけることができる。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1. 暮らしを支える看護技術	1. 暮らしの場看護するための心構え 2. セルフケアを支える対話・コミュニケーション 3. 家庭訪問・面接・相談技術・教育技術 1) 在宅・看護における家族を支える看護 4. 地域・在宅看護における安全をまもる看護 1) 療養環境調整・与薬 5. 地域・在宅看護における看護師への暴力・ハラスメント			講義 演習
2	2. 医療依存度の高い患者の看護	1. 地域・在宅における暮らしを支える看護実践 1) 療養環境調整に関する技術 2) 活動・休息に関する地域；在宅看護技術 (1) 食生活・嚥下・排泄・清潔・衣生活・苦痛の緩和 3) 尿道留置カテーテル挿入中の患者の看護 4) 経管栄養を受けている患者の看護 5) 在宅中心静脈栄養法（HPN）を受けている患者の看護 6) 在宅酸素療法（HOT・NPPV）を受けている患者の看護 7) 在宅人工呼吸器療法（HMV）を受けている			講義 演習
3					
4					
5					
6					

7	3. 訪問看護での援助	患者 8) 緩和ケアを受けている患者の看護 9) 薬物管理を受けている患者の介護 10) 長期療養者にたいする在宅看護 1) 訪問看護の実際 2) 訪問看護を体験してみよう 3) 訪問看護のマナー (1) 事例にて訪問・援助おこなう (2) 紙上事例を用いて、訪問・援助する (初回訪問のロールプレイ・認知症) (自宅での認知症の援助の実際・工夫)	講義 演習
8	学科 科目 まとめ	単位認定試験	
評価方法		筆記テスト・出席状況（授業参加態度）	
評価区分		100%	

授業科目名	地域・在宅看護論 IV				
開講年次	2 年次	単位数	1	時間数	15
テキスト	地域・在宅看護論 1・2 医学書院				
参考図書	地域・在宅看護論①② ナーシンググラフィカ 在宅看護技術（メジカルフレンド社） 地域療養を支えるケア・技術（メディカ出版）地域・在宅看護論 医歯薬出版株式会社				
ねらい	地域包括支援センターや訪問看護ステーションで実習での多職種連携を想起しながら、在宅療養者と家族が、地域へアセスメントの中で、どのような社会資源を活用し、多職種と連携しながら生活しているのか理解していく。また、地域包括ケアシステムづくりから評価・改善までのプロセスや、地域でその人らしく暮らしていくために、その人の持てる力を生かせるように、健康づくり、疾病予防の取り組みについても学んでいく。地域で十先に暮らしを支えている取り組みや、看護師の役割について考えていく。				
目的	1. 地域・在宅看護実践の場における多職種連携・協働のなかで看護師が果たす役割、多職種でかかわる意義を理解する。 2. 医療・福祉・介護関係者との連携・医療・福祉・介護関係者以外の個人・団体・機関との連携やさまざまな視点を理解する。 3. 地域包括ケアシステムのプロセスから評価・改善と健康づくりと疾病予防の取り組みについて理解できる。 4. 地域・在宅看護実践において、多職種連携・協働がどのように活用しているのか、考えることができる。				
回数	学習項目	学習内容		方法	
1 2 3 4	1. 地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働	1. 看護師が連携・協働において果たす役割 2. 医療・福祉・介護関係者との連携 3. 医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働 4. 地域共生社会を実現するために 1) 実習での学びを活かして、地域の暮らしの中での看護師と多職種連携の実際をまとめていく。 2) 千葉県医師会館にて福祉用具の学習・体験して介護支援専門員と看護師の役割を理解する		講義 演習 講義 グループワーク	
5 6 7	2. 地域・在宅看護のシステムづくり	1. 地域包括ケアシステムづくり 1) 地域ケアシステムづくりのプロセス 2) 地域アセスメント 3) 地域課題の明確化 4) 対応策の計画・実行・評価・改善 5) 地域ケアシステムづくりの実際 1 2. 健康づくりと疾病予防のシステム 1) 地域における健康づくりと疾病予防のシステム		講義 グループワーク	

7	1. 地域・在宅看護マネジメント	2) 健康づくりと疾病予防のシステムの手法 3) 地域・在宅看護における健康づくり・疾病予防システム 4) 地域包括支援センターでの取り組み (1) 地域で実際に多職種連携によって、その人らしく暮らししていくための取り組み	講義
8	学科評価 まとめ	1. 地域・在宅ケアマネジメントとは 2. 多様な場における地域・在宅看護マネジメント 単位認定試験	講義
評価方法		授業の出席時間及び授業態度・授業中に提示した課題	
評価区分		100%	

授業科目名	地域・在宅看護論 V (方法論②)				
開講年次	2年次	単位数	1	時間数	15
テキスト	地域・在宅看護論 1・2 医学書院				
参考図書	地域・在宅看護論 メジカルフレンド社 地域・在宅看護論 ①② メディカ出版 地域・在宅看護論 医歯薬出版株式会社				
ねらい	地域・在宅看護で暮らしている人々は、すべての年代の多様な健康課題のある人々やリスクの高い人々、療養者とその家族が含まれる。ここでは健康問題を理解し、対象者の健康状態に応じた根拠に基づき、その人のもてる力を生かした支援方法とケアシステムの基本を修得することである。地域で療養しながら、生活する人々及び、医療管理を必要しながらも、その人らしく暮らしを営めるように、もてる力に着目しながら健康課題に着目し、療養者と家族への看護を実践するための基本的な看護技術を身につける。 ここでは、認知症ケア、難病ケア（ALS）、生活不活発病予防、パーキンソン病、終末期（非がん療養者）及び専門的な支援が必要な精神障がいケア、複雑困難事例ケアの地域・在宅看護実践について理解する。				
目標	1. 対象者や家族に合わせ、暮らしや思い、人生の経過を理解し、対象者や家族の価値観にそった看護支援を考えることができる。 2. 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討できる。 3. 在宅療養者のもてる力を引き出し、とその家族の状況に応じた生活支援の方法と支援を理解できる。 4. 医療ケアを必要とする療養者やその家族に、状況に応じた安全な管理方法を検討・提案できる。 5. 療養者とその家族が望む暮らしを実現するためのケアマネジメントの展開・社会資源の活用について理解できる。				
回数	学習項目	学習内容		方法	
1	1. 地域・在宅看護の事例展開	1. 地域・在宅看護と難病ケア		講義 演習	
		1) 難病の理解 2) 難病療養者を支えるケアシステム 3) 難病患者への看護 4) 難病患者への支援			
2		2. 地域・在宅看護と認知症ケア		講義 演習	
		1) 認知症の理解 2) 認知症ケアのためのシステム 3) 認知症の療養者・家族への支援			
3		3. 地域・在宅看護・パーキンソン病		講義 演習	
		1) パーキンソン病の理解 2) パーキンソン病を支えるケアシステム 3) パーキンソンの療養者・家族への支援			
4		4. 地域・在宅看護と生活不活発病		講義 演習	
		1) 生活不活発病の理解			

5		2) 生活不活発病予防のためのケアシステム 3) 生活不活発病予防・回復・慢性期への看護 5. 地域・在宅看護と精神障害ケア 1) 精神障害の理解 2) 精神障害者を支える地域包括ケアシステム 3) 精神障害者・家族への看護	講義 演習
6		6. 地域・在宅看護と複雑困難事例ケア 1) 複雑困難事例の理解 2) 複雑困難事例を支えるケアシステム 3) 複雑困難事例への看護・支援	講義 演習
7	2. 地域・在宅看護活動の創造と展開例	1. 地域・在宅看護活動の創造 2. 「暮らしの保健室」 3. さまざまな地域・在宅看護活動の展開例	講義 演習
8	学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法		授業の出席時間及び授業態度・授業中に提示した課題	
評価区分		100%	

授業科目名	精神看護学Ⅰ（精神疾患）		担当講師		
開講年次	1年次 後期		単位数	1	時間数 15
テキスト	精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社				
参考文献	精神障害と看護の実践 メディカ出版				
関連科目	人体の構造と機能 医学書院				
ねらい	精神疾患とは、精神機能の基盤となる心理学的・生物学的・または発達過程の機能不全を反映する個人の認知・情動制御、または行動における臨床的に意味のある障害によって特徴づけられる過程をいう。精神機能が病的になると程度の差はあれ日常的な対人関係に変化や支障をきたす。そのため、対象や家族が多様な場で生活するためには、精神疾患の病態・診断・治療について理解でき看護に活かすことができるように学ぶ。				
目標	1. 主な精神疾患の病態生理、症状、検査、治療について理解できる。 2. 主な精神疾患について学び看護について考えることができる。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1 2 3 4 5 6 7	1. 主な精神疾患の病態と 診断・治療	1. 主な精神疾患/障害 1) 統合失調症 2) 双極性障害 3) 神経症性障害、ストレス関連障害 4) 不安障害、神経症性障害 強迫性障害 適応障害 強迫性障害 適応障害 5) パーソナリティ障害 6) アルコール、薬物、その他の依存症 2. 精神科的診察 1) 診察 2) 一般的検査・画像検査 3) 心理検査 3. 精神疾患の主な治療法 1) 薬物療法 2) 電気けいれん法 3) リハビリテーション療法 4) 精神療法			講義
8	学科評価	単位認定試験			
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する			
評価区分		学科試験 100%			

授業科目名	精神看護学Ⅱ (精神看護学概論 精神保健)			
開講年次	2年次 前期	単位数	1	時間数 15
テキスト	精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社			
参考文献	情動発達と精神看護の基本 メディカ出版			
関連科目	人体の構造と機能 医学書院 精神保健福祉 メヂカルフレンド社			
ねらい	精神疾患は、医療機関にかかっている患者数は増加傾向にあり、現代社会の特徴としてストレス、うつ病、自殺、依存症など医療や福祉の施策が充実してきている。精神保健では、精神障害の予防・治療・社会参加や精神的健康の保持・増進について学ぶ。また、患者の処遇と人権擁護についても学ぶ			
目標	1.精神保健の目的と精神保健医療政策を理解する 2.精神保健の入院医療から地域生活への移行を理解する 3.精神（心）の構造と働きについての精神力動理論を理解する 4.現代社会特有の精神保健上の問題の実状と社会的背景を理解する 5.精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇を理解する			
回数	学習項目	学習内容		方法
1 2	1.精神看護学で学ぶこと	1. 精神保健で扱われる現象 1)精神障害と精神保健 2)日本の精神保健医療政策と方向性 2. 精神的健康の保持・増進としての精神保健 3. 地域精神保健 1) 入院医療中心から地域生活中心へ 2) 権利保障 3) 地域精神保健における第一次予防 第二次予防、第三次予防 4)リカバリーを機軸した精神医療		講義
	2.精神（心）のとらえ方	1. 脳の構造と認知機能 1)脳・神経の構造 2)認知機能と神経基盤 1) 意識と注意 記憶 言語 認知 2) 行為 遂行機能（実行機能） 3) 感情 社会的認知 4) 認知機能の脳半球優位性 2. 精神（心）の構造と働き 1) 精神力動理論・防御機制 2) コフートの自己心理学 3) 対象関係論		講義
	3.精神（心）の発達に関する主要な考え方	1.エリクソンの漸成的発達理論 2.ボルビイの愛着理論		

3 4 5 6	4.社会の中の精神障害	1 精神障害と治療の歴史 1. 精神障害と差別 1) スティグマ 2) スティグマとアイデンティティ 3) 心のバリアフリー 4)障害者差別の解消に向けて	
	5.暮らしの場と精神（心）の健康	1. 精神保健の概念 1) リカバリー・レジリエンス 2)メンタルヘルス 2. 家族・家庭の精神保健 1) 家族の機能と多様化 2) 夫婦関係 3) 親子関係	講義
	6,現代社会と精神（心）の健康	1. 現在社会の特徴 2. 精神保健が関与する社会病理現象 1) ドメスティックバイオレンス 2) ひきこもり 3) 自殺 4) 自傷行為 5) アルコール問題 6) 薬物問題 7) ギャンブル依存 8) IT 依存 9) 犯罪・非行	講義 グルー プ ワーク
7	7. 精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇	1) 入院医療の形態 (1) 精神保健指定医、特定医師 (2) 任意入院・措置入院・医療保護入院 応急入院・通報と移送 2) 入院患者の処遇と権利擁護 (1) 自己決定の尊重、入院患者の基本的な処遇 (2) 開放処遇 (3) 入院中の行動制限 2)法の運用と看護ケア	講義
8	学科試験	単位認定試験	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学科試験 100%	

授業科目名	精神看護学Ⅲ（方法論 精神科以外の精神看護）				
開講年次	2年次 前期		単位数	1	時間数 30
テキスト	精神障害をもつ人の看護 メディカルフレンド社				
参考文献	精神障害と看護の実践 メディカ出版 援助技法としてのプロセスレコード				
関連科目	心理学				
ねらい	精神疾患・障害をもつことの意味、症状・診断・治療法、入院前から退院後までのプロセスにおいて、リカバリーの視点で看護援助を考え学ぶ。また、精神看護では、特に対象の心の理解が重要である。看護師の働きかけがどのように患者に影響しているかを客観視するため、患者と看護師の対人関係場면을振り返る。再度その場に身を置き、身らの知覚、感情、行動を基に看護実践を洞察することが対人関係の向上に活用したり、患者に対する理解を深めたりする				
目標	1.精神障害をもつ対象のリカバリーの視点で看護を理解する 2.精神に障害をもつ対象との「患者－看護師」関係の在り方を理解する 3.対象との関わりの一場面を再構成することにより、自己洞察の方法を理解する 4.認知・感情・行動が影響しあって人間関係に影響することが理解できる 5.精神障害をもつ対象の地域生活支援の実践を理解する				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1.精神疾患/障害の診断基準・分類	1)精神疾患/障害の診断基準・分類 1)精神疾患の分類 2)アメリカ精神医学会の診断・統計マニュアル 3)国際疾病分類（ICD） 4)国際生活機能分類（ICF）			講義
	3. 精神科病棟における自己防止・安全管理と倫理的配慮	1)精神科看護における看護管理 2)病棟環境の整備 （1）療養環境の整備 （2）危険物の管理 （3）災害時の精神科病棟の管理 3)自殺・自殺企画・自傷行為 4)攻撃的行動・暴力・暴力予防 5)離院 6)隔離・身体拘束			
2 3 4 5 6 7 8	4.主な精神疾患/障害	事例で学ぶ 1)主な精神疾患/障害をもつ対象の看護 （1）急性期から慢性期の看護 （2）精神障害をもつ対象のセルフケアの支援 ①セルフケア理論 ・オレム・アンダーウッドモデル ・自己決定能力への働きかけ			講義 グループ ワーク

		②看護実践におけるセルフケア理論の適用 (3)精神障害をもち対象のセルフマネジメント ①背景 ②疾病教育 ③服薬自己管理 ・統合失調症 ・妄想性障害 ・双極性障害 ・うつ病 ・アルコール依存症	
9 10 11	5.精神障害をもち対象と「患者－看護師」関係の構築	1.精神障害をもち対象との関わり方 1)「患者－看護師」関係の目指すこと 2)「患者－看護師」関係を理解するためのつながり 3)関係構築にあたっての基本的な態度 4)患者とのかかわりで起こり得ることと対処 2.精神障害をもち対象とのコミュニケーション 1)精神障害をもち対象との関係の振り返り (1)振り返ることの意味 (2)プロセスレコード (3)書き方と振り返りの実際 2)自分を振り返る (1)自己理解 ①自分の感情に気づく ② 肯定的な感情と否定的な感情 ③ 感情と行動との関係 ④ 否定的な感情が生じる背景を考える 3) 治療的関わりのかえ方 (1) コミュニケーションに影響を与える要因 (2) 日常生活におけるコミュニケーション (3) 信頼関係を築くためのコミュニケーション	講義 個人 ワーク
12	6.リエゾン精神看護	1. リエゾン精神看護とは、 2. リエゾン精神看護活動 3. リエゾン精神看護のケアの実際	講義
13 14	7. 精神障害をもち対象の地域生活支援の実際	1. 地域生活の再構築と社会参加 1)ケアシステムと支援に関する法制度 ①ケアシステムと地域包括ケアシステム ②障害者総合支援法による自立支援給付と地域生活支援事業 ① 地域生活への移行と生活支援 ② 社会参加への支援 ③ 当事者への力量を生かす相互支援 ④ 誰もが暮らしやすい地域づくり	講義 グルー プワー ク

		2. 精神障害をもつ対象の地域生活支援の実際 1) 多職種による地域生活支援 2) 長期入院患者の地域生活への移行支援 3) 訪問看護を通じた地域生活支援 4) 就労支援 3. 精神障害をもつ対象をケアする家族への支援 1) 精神障害の家族への影響 2) 家族への支援	
15	学科試験	単位認定試験	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学科試験 100%	

授業科目名	成人看護学Ⅰ（成人看護学概論）				
開講年次	1年次 前期	単位数	1	時間数	15
テキスト	成人看護学総論 成人看護学Ⅰ				
参考文献・ 関連科目	厚生労働省 HP・総務省 HP 教育学 地域・在宅看護論 関係法規 健康支援 等				
学習のねらい	現代社会は危機の時代を迎えている。この危機の時代を生きる大人は、自身の健康をまもり、生活や環境の変化に対応しつつ、日々仕事に従事し、将来への不安や脅威に立ち向かい家族の幸せを求め、懸命に働き家庭を築き守っている。成人看護学では、対象理解のために「大人」とはどういう人たちか、どのような健康問題を抱えるのかを学んだうえで、このような「大人」を対象にその人にとって最適な健康を維持・促進するための看護援助を学ぶ。また、「大人」の多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的考え方や方法を学ぶ。				
目標	1. 対象である成人、「大人」について理解することができる。 2. 人の心身の発達と社会や環境、生活の視点から「大人」を理解することができる。 3. 「大人」の健康を守り、はぐくむ保健・医療・福祉システムの概要と動向について理解する。 4. 成人看護の基本となる考え方や「大人」の学習理論に基づいて行動変容を促進する方法を理解できる。 5. 成人の健康レベルや状況に対応した看護が理解できる。				
回数	学習項目	学習内容	方法		
1.	成人の定義とライフサイクルからみる成人	1. 「成人看護学」の特徴 2. 対象の理解「大人になること、大人であること」「成人」とであるということ	講義 演習		
2	成人への看護アプローチの基本	1. 健康生活を支える人間関係の構築 2. 学習者としての成人の特徴を理解する（成人教育学の概念：アンドラゴジーモデル） 3. 行動変容を促進する看護アプローチ 4. 症状マネジメントとは 3. 成人の健康状態に応じた看護	講義 グループワーク 事例（例として糖尿病や高脂血症など）を用いながら考えていく。		
3	成人の生活	1. 生活とは何か ～成人各期における生活の特徴～ 2. 成人の生活の理解 ～働いて生活を営むこと～ ① 成人期に対象の労働の意味と価値を理解する。 ② 家族の発達段階で変わる家族の役割を理解する。 3. 成人期にある人が健康障害をもつことの意味 5. 成人と死	講義		
4. 5. 6	成長発達の特徴・発達段階	1. 成人期の発達課題と関連する理論 ・エリクソン・ハビィガースト・レビンソン 2. 成人各期の特徴と健康問題	講義 演習 発表		

7		青年期・壮年期・向老期 ●事例をもとに各期の理論から身体的・心理的特徴を踏まえ、健康問題・看護について考える	
	学科評価 まとめ	単位認定試験 (45 分)	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学科試験 100%	

授業科目名	系統別看護Ⅰ（成人看護学Ⅱ） （呼吸・循環）				
開講年次	1年	単位数	1	時間数	30
テキスト	成人看護学②③④⑪				
参考文献	解剖生理学 人体の構造と機能 医学書院				
関連科目	形態機能学				
学習のねらい	成人・老年というものの概念を把握したうえで、人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態におかれるかを理解し、その時の患者のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを理解し、その時の患者のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかをそれぞれの系統にそって学習する。また、加齢による身体的変化や特徴を理解し、看護につなげることができる。				
目標	1. 呼吸器障害のある対象の看護を理解する。 2. 循環機能障害のある対象の看護を理解する。 3. 身体防御機能の障害のある対象の看護を理解する。				
回数	学習項目	学習内容	方法		
1. 2. 3. 4. 5.	呼吸機能障害のある対象の看護	肺がん・肺炎・結核・COPD・間質性肺疾患・睡眠時無呼吸症候群・喘息 1) 症状とその病態生理・アセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける対象の看護（胸部レントゲン・CT・胸腔穿刺・気管支鏡・動脈血液ガス分析など） 3) 治療を受ける対象の看護（肺切除術・人工呼吸器・化学療法・放射線療法・胸腔ドレナージ・気管切開など） 4) 呼吸器疾患の看護に関連する看護技術（弾性ストッキング・人工呼吸器）	講義 講義演習 （2時間）		
6. 7. 8. 9. 10 11.	循環機能障害のある対象の看護	心不全・狭心症・心筋梗塞・弁膜症・不整脈・大動脈解離・大動脈瘤・動脈系疾患・リンパ系疾患・心膜炎・心筋炎 1) 症状とその病態生理・アセスメントと看護（ポンプ機能障害・刺激伝導系障害） 2) 検査・処置を受ける対象の看護（心電図・心臓カテテル・心エコー・血行動態モニタリングなど） 3) 治療を受ける対象の看護（PCI・CABG・ペースメーカー・大動脈瘤ステントグラフト内挿術・TAVI・弁置換術など） 4) 循環器疾患の看護に関連する看護技術（モニター心電図・12誘導心電図）	講義 講義演習		
12. 13. 14.	身体防御機能の障害のある対象の看護 （血液・造血器アレルギー・膠	アレルギー（蕁麻疹・接触性皮膚炎・薬物、ラテックスアレルギーなど） 膠原病（関節リウマチ・エリテマトーデス・強皮症・皮膚筋炎など） 骨髓機能障害（造血器腫瘍など）	講義		

	原病・感染症	感染症（低体温・高体温） 1) 症状とその病態生理・アセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける対象の看護（スキンテスト・粘膜、皮膚生検・骨髄穿刺） 3) 治療を受ける対象の看護（減感作療法・免疫抑制剤・ステロイド療法・造血幹細胞移植・抗ヒト免疫不全ウイルス＜HIV＞療法）	
15.	学科評価 まとめ	単位認定試験 单元ごとに評価する	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学科試験 100%（ 呼吸器：40%・循環器：40%・身体防御：20%＝100% ）	

【授業科目】 系統別看護Ⅰ（成人看護学Ⅱ）（呼吸・循環器）			
【対象】 29 回生 1 学年		【単位数】 1 単位 30 時間	
【時間数】 講義 6 時間 （3 コマ）			
【授業期間】 令和 5 年 6 月 16 日～		【担当者】	
【授業概要】 身体防御機能の障害のある対象の看護 （血液・造血器・アレルギー・膠原病・感染症）			
【授業計画】			
回	日時・時限	講義目標	授業形態
1	6 月 16 日（金） 2 限	1.アレルギー疾患の原因、症状、経過の特徴を知る （蕁麻疹・接触性皮膚炎・薬物・ラテックスアレルギーなど） 1) 免疫・抗体とは 2) アレルギー性疾患（Ⅰ～Ⅳ型） 2.アレルギー疾患の検査、治療の看護を理解する 1) プリック・スクラッチテスト・パッチテスト 2) 検査時の注意点・看護	講義
2	6 月 22 日（木） 3 限	1.膠原病疾患の特徴と看護について理解する 1) 膠原病とは 2) 主な膠原病 （関節リウマチ、SLE、強皮症等） 3) 検査や治療（ステロイド療法） 4) 膠原病患者の看護	講義
3	6 月 28 日（水） 2 限	1.感染症の概念と感染が成立するまでのしくみを理解する 2.感染症の代表的な症状について学び、特徴や関連する疾患を理解する 3.抗菌薬の特徴や副作用、注意すべきポイントを理解する 1) 感染症とは（体温調整のしくみ） 2) 抗菌薬（薬剤耐性のメカニズム） 3) ヒト免疫不全ウイルス療法・看護 4.血液の成分・性状と基本的な機能について理解する 5.血液疾患の診断に必要な検査法を理解する 6.代表的な疾患について学び、その特徴や看護を理解する 1) 血液の構造 2) 白血病（症状・骨髄検査・化学療法・造血幹細胞移植） 3) 鉄欠乏性貧血（症状・治療・看護） 4) 悪性リンパ腫（症状・治療・看護）	講義
試験（日時未定）		【評価方法】 授業の出席時間および授業態度、学科試験 20 点分（筆記試験）	
【参考書】 系統看護学講座 アレルギー 膠原病 感染症 成人看護学 11 医学書院 新体系 看護学全書 内部環境調節機能障害 身体機能障害 メヂカルフレンド社 病気がみえる 6 免疫 膠原病 感染症 メディックメディカ			

授業科目名	系統別看護Ⅱ（成人看護学Ⅲ） （消化器・内分泌・栄養・代謝）				
開講年次	2年	単位数	1	時間数	15
テキスト	成人看護学⑤⑥				
参考文献 関連科目	解剖生理学 人体の構造と機能 医学書院 形態機能学				
学習のねらい	成人・老年というものの概念を把握したうえで、人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態におかれるかを理解し、その時の患者のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを理解し、その時の患者のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかをそれぞれの系統にそって学習する。また、加齢による身体的変化や特徴を理解し、看護につなげることができる。				
目標	1. 消化・吸収機能障害のある対象の看護を理解する。 2. 内分泌・栄養・代謝機能障害のある対象の看護を理解する。				
回数	学習項目	学習内容	方法		
1. 2. 3. 4. 5.	消化・吸収機能障害のある対象の看護	口腔・咽頭腫瘍（舌がん、咽頭がん、喉頭がん） 上部消化管腫瘍（食道がん・胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃がん） 下部消化管腫瘍（大腸がん） 腸・腹膜疾患（潰瘍性大腸炎・偽膜性腸炎・クローン病・腸閉塞） 食道静脈瘤・肝臓・胆道系・膵臓（肝炎・肝硬変・肝臓がん・胆のう炎・胆管炎・膵炎・膵臓がん） 1) 症状とその病態生理・アセスメントと看護 （腹痛・嘔気・嘔吐・吐血・下血・下痢・便秘・腹水・黄疸・意識障害＝肝性脳症） 2) 検査・処置を受ける対象の看護（上部・下部内視鏡検査・放射線検査＝MRCP、DIC、PTC、ERCP、肝生検・腹腔鏡・腹部超音波など） 3) 治療を受ける対象の看護（イレウス管挿入中の看護、食道・胃・大腸切除術、肝切除術、肝動脈塞栓術、インターフェロン療法） 4) 臓器移植と看護（生体肝移植）	講義		
6. 7.	内分泌・栄養・代謝機能障害のある対象の看護	内分泌機能障害（甲状腺機能障害・副腎機能障害・下垂体機能障害） 代謝疾患（糖尿病）高尿酸血症・脂質異常症・肥満 1) 症状とその病態生理・アセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける対象の看護 3) 治療を受ける対象の看護（甲状腺ホルモン療法・甲状腺切除術など）	講義		
8.	学科評価	単位認定試験			

	まとめ	単元ごとに評価する	
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	学科試験 100% （ 消化器：70% 内分泌：30%）		

授業科目名	老年看護学Ⅰ				
開講年次	1年次 前期～後期	単位数	1	時間数	15
テキスト	老年看護学Ⅰ 医学書院				
参考文献 参考図書	・看護学概論・成人看護学概論 ・国民衛生の動向（2022） 老年看護学概論/老年保健 メジカルフレンド社 高齢者の健康と障害 メディカ出版				
ねらい	老年期にある対象を身体的・社会的・精神的に捉え、発達段階にある老年期の特徴を理解し、老年看護における看護の役割について学習する。 治療の場である病院や療養のための施設、住み慣れた場である居宅等、高齢者の生活の場は多岐にわたる。 高齢者の歩んできた人生やその時代の背景に対し共感的理解を深めるとともに、日本の高齢社会における保健・医療・福祉サービス、看護の役割を学んでいく。加齢変化は身体機能の低下を引き起こし、高齢者の生活や社会、心理的側面に大きな影響を及ぼす。様々な場における高齢者を、生活者として捉えるためのアセスメントの視点や、その人らしい生活が送れるように、高齢者の持てる力を活用した援助方法を学習する。				
目標	1. 様々な場所における老年期にある対象の身体的・社会的・精神的特徴を理解する。 2. 高齢者の保険・医療・福祉について知り、老年看護の役割を学ぶ。 3. 高齢者が最期までその人らしく生きていけるための看護師の役割が理解できる 4. 高齢者体験を通して、身体的変化や日常生活の中の変化を体感することで、援助に結びつけていくことができる。 5. 高齢者の生活機能と包括的アセスメントの視点、評価について理解できる。				

回数	学習項目	学習内容	方法
1	1. 老いるということ	1) 老いるということ 2) 加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面の変化 3) 老いを生きるということ	講義 演習
	2. 老年看護のなりたち ・高齢社会における看護の役割が理解できる	1) 老年看護のなりたち 2) 老年看護の役割 (1) 4つの側面 (2) 老年看護の特徴 3) 老年看護における理論・概念の活用 (1) サクセスフルエイジング (2) 発達段階から老年を考える 4) 老年看護にかかわる者の責務	
2	3. 高齢者をとりまく社会の動向について調べてみよう	1) 統計から見えるもの	講義 演習
3		(1) 高齢者の特徴 ①ライフサイクルから見えてくるもの (2) 家族構成とニーズ ①生活と家族 (3) 保険医療・福祉の動向 ①介護保健制度・医療保健制度	

4 5	4. 加齢現象が及ぼす影響について考えてみよう	(4) 高齢者を支える制度・社会資源 (5) 地域ケアシステム ①病院や施設の療養の場からみて 2) 高齢者の権利擁護 (1) エイジズム・アドボカシー (2) ノーマライゼーション (3) 成年後見制度（法テラスなど） (4) 日常生活自立支援事業 3) 虐待・抑制・身体拘束・成年後見制度 4) 孤立死 1) 高齢者疑似体験	講義 演習
6 7	5. 高齢者のヘルスアセスメント（加齢に伴う変化の特徴と症状のアセスメント）	1) 身体的・生活の自立状態・心理・社会健康・環境・生活史からのアセスメント 2) 身体の高齢変化とアセスメント (1) 皮膚・視覚・循環系・呼吸器系 (2) 消化器系・ホルモン分泌・泌尿器 (3) 運動系・サルコペニア・フレイル・ロコモティブシンドローム ①掻痒・脱水・浮腫	講義 演習
8	学科 評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法		授業の出席時間および授業態度 授業中に提示した課題	
評価区分		学科試験 100%	

		糖尿病網膜症の患者の看護	
15.	学科評価 まとめ	単位認定試験 单元ごとに評価する	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学科試験 100% (脳神経：40% 運動：30% 感覚器：30%=100%)	

授業科目名	系統別看護Ⅳ（老年看護学Ⅲ） （生・生殖・排泄機能障害）			
開講年次	2 年	単位数	1	時間数 15
テキスト	成人看護学⑧⑨			
参考文献 関連科目	解剖生理学 人体の構造と機能 医学書院 形態機能学			
学習のねらい	成人・老年というものの概念を把握したうえで、人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態におかれるかを理解し、その時の患者のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを理解し、その時の患者のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかをそれぞれの系統にそって学習する。また、加齢による身体的変化や特徴を理解し、看護につなげることができる。			
目標	1. 性・生殖機能障害のある対象の看護を理解する。 2. 排泄障害のある対象の看護を理解する。			
回数	学習項目	学習内容	方法	
1. 2. 3.	性・生殖機能障害のある対象の看護（前立腺含む）	乳癌・子宮筋腫・子宮内膜症・卵巣嚢腫・卵巣癌 前立腺炎・前立腺肥大・前立腺がん 1) 症状とその病態生理・アセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける対象の看護 3) 治療を受ける対象の看護	講義	
4. 5. 6. 7.	排泄機能障害のある対象の看護（前立腺以外）	腎・尿路結石・腫瘍（腎がん・膀胱がん）腎不全 1) 症状とその病態生理・アセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける対象の看護 3) 治療を受ける対象の看護（血液透析・腹膜透析） 4) ストマの装着、創傷処置技術（褥瘡・フットケア⇒VAC療法）	講義 講義演習 （循環器病センター認定看護師）	
8.	学科評価 まとめ	単位認定試験 単元ごとに評価する		
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分		学科試験 100% （ 生・生殖 40% 排泄：60% =100% ）		

授業科目名	小児看護学Ⅰ（子どもを取り巻く環境）				
開講年次	1年生	単位数	1	時間数	15
テキスト	小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 : 医学書院 小児看護学② 小児臨床看護各論 : 医学書院				
参考図書	根拠と事故防止からみた小児看護技術 : 医学書院				
学習のねらい	わが国の小児看護の変換、子どもを取り巻く社会環境の変化や健康問題を理解し、子どもの健康保持増進のための保健・医療・福祉活動と看護の役割を学ぶ。また、成長発達ごとの小児の形態機能・心理社会的機能の特徴と家族の機能について個人ワークを取り入れて学習する。さらに、現代における小児と家族の諸問題についてグループワークにより見識を深めるとともに、小児看護学を学ぶ者として課題を見出し発展学習につなげていく。				
目標	1. 子どもの成長発達を理解し、小児各期の特徴を理解する。 2. 小児各期の特徴に適した生活と養護を理解する。 3. 現代社会の中で子どもを取り巻く問題とその対象が理解できる。 5. 小児保健統計を踏まえ、地域で暮らし育つ子どもを支える法律や保健対策を学び、看護の役割を理解する。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1. 小児看護の特徴と理念	1. 小児看護の対象 1) 「子ども」とは 2) 子どもと家族・社会 2. 子どもを理解するための発達理論 1) 認知発達理論、自我発達理論、愛着理論など 3. 小児看護・児童観・育児観の変遷 1) 小児医療と看護の変遷～現代の小児看護 2) 小児看護学の独立や小児専門病院の誕生前とその後の変化			講義
2	2. 小児医療・小児看護における倫理	4. 小児看護の理念 1) 小児看護の役割と責務・課題 1. 子どもの権利と親の責任 1) 子どもの権利（人権・決定権） ①子どもの権利条約（4つの権利） ②児童憲章 2. 看護の業務と責務 1) 小児看護領域で特に留意すべき子どもの権利と必要な看護行為 プレパレーション・インフォームドアセント・アドボカシー			講義 講義演習 グループワーク
3～4	3. 小児の成長発達と看護	1. 成長と発達 1) 発達の定義と原理原則 2) 成長発達に影響する因子 3) 成長発達の評価 4) 小児の栄養			講義 グループワーク

5 6～7 8	4. 子どもにとっての家族の役割 5. 小児と家族を取り巻く社会 6. 小児のアセスメント 7. 学科評価 まとめ	2. 各発達段階の成長と発達 《新生児期・乳児期》 1) 形態的特徴 2) 身体生理の特徴（原子反射） 3) 各機能の特徴 4) 養育および看護（日常生活の世話、事故防止） 《幼児期・学童期》 1) 形態的特徴 2) 身体生理の特徴（遊びの発達と社会性、不慮の事故） 3) 養育および看護（日常生活の自立と世話、生活習慣病の予防、安全教育） 《思春期・青年期》 1) 形態的特徴 2) 身体的特徴（第二性徴） 3) 各機能の特徴 4) 心理・社会的適応に関する問題（自殺、いじめ、不登校、ひきこもり） 5) 思春期の看護 1. 子どもと家族の生活 1) 子どもと家族 2) 子どもをもつ家族のアセスメント 1. 子どもと保健；統計からみた子どもの健康 1) 出生率 2) 乳児死亡 3) 子どもの死亡 4) 子どもの疾患・異常被患率 2. 子どもを保護する法律と保健対策 1) 児童福祉 2) 母子保健 3) 医療費の支援 4) 予防接種 5) 学校保健 6) 特別支援教育 7) 臓器移植法 1. 小児のアセスメントに必要な技術 1) 子どものバイタル測定・フィジカルアセスメント 2) 成長発達段階に合わせたコミュニケーション 単位認定試験	講義 講義演習 グループワーク
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	学科試験 100%		

授業科目名	小児看護学Ⅱ (子どもの健康問題と看護)				
開講年次	1 年生	単位数	1	時間数	30
テキスト	小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 : 医学書院 小児看護学② 小児臨床看護各論 : 医学書院				
参考図書	子どもの病気の地図帳 : 医学書院 小児看護学概論/小児保健 : メヂカルフレンド社				
学習のねらい	小児は健康状態における看護だけでなく、年齢相応の日常生活の世話により、健康回復への支援や成長発達を継続する視点と合わせた統合的な見地から小児と家族に必要な看護を行うことが大切である。小児に特有な疾患の病態・治療について中心として、また様々な状況下にある子どもと家族についての現状を学び、必要な社会資源や制度をふまえ、子どもや家族に必要な看護について学習する。				
目標	1. 小児疾患をもつ患児に必要な、主な疾患・診断・治療について理解できる。 2. 健康障害が子どもとその家族におよぼす影響と反応を知り、発達段階に合わせた看護の役割について理解できる。 3. 健康の段階に応じた子どもとその家族の看護方法を理解し、健康上の問題を解決するための思考過程を明確にすることができる。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1～8	1. 子どもの健康障害 小児特有の病態と診断・治療	1. 染色体異常 (胎内環境により発症する先天異常) 1) ダウン症 2) ターナー症候群 3) クラインフェルター症候群 4) 口蓋裂 2. 新生児の疾患 1) 分娩外傷 2) 適応障害 3) 感染症 4) 低出生体重児の疾患 5) 成熟異常 3. 感染症 1) 細菌感染症 2) ウイルス感染症 4. 循環器系疾患 1) ファロー四徴症 2) 先天性後天性心疾患 3) 川崎病 5. 呼吸器疾患 1) 上気道の疾患 2) 急性気管支炎 3) 細気管支炎 4) 肺炎 6. 消化器系疾患 1) 肥厚性幽門狭窄 2) 腸重積 3) 鎖肛 4) ヒルシュスプルリング 5) 乳幼児下痢症 7. 腎・泌尿器系疾患 1) 腎炎 2) ネフローゼ症候群 3) 慢性急性腎臓病 8. 代謝性疾患 1) I型糖尿病 2) アセトン血症 9. 免疫・アレルギー性疾患 1) 気管支喘息 2) 食物アレルギー			講義

		10. 血液疾患 1) 白血病 2) 血友病 11. 神経系疾患 1) てんかん 2) 熱性けいれん 3) 脳性麻痺 4) 髄膜炎 5) ギランバレー症候群 6) 小児の言語障害 (吃音) 7) 筋ジストロフィー 12. 運動系疾患 1) 先天性股関節脱臼・内反足 2) 骨折 13. 悪性新生物 1) 造血器腫瘍 2) 脳腫瘍 3) その他固形腫瘍 14. 精神・心身の疾患 1) 発達障害 2) チック症 3) PTSD 4) 食行動障害および摂食障害 15. 事故と外傷 1) 頭部外傷 2) 誤飲 3) 溺水 4) 熱傷 16. 感覚器系 1) 母斑 2) 蕁麻疹 3) 伝染性膿痂疹 4) 睫毛内反 5) 外耳の奇形 6) アデノイド増殖症	
9 ～11	2. 病気・障がいをもつ子どもと 家族の看護 3. 子どもの状況 (環境) に特徴 づけられる看護 4. 子どものさまざまな疾病の 経過における看護	1. 病気・障がい子どもと家族に与える影響 1) 病気・障がいに対する子どもの反応 2) 子どもの病気・障がいに対する家族の反応 2. 子どもの健康問題と看護 1) 健康問題を持つ家族の看護と方向性 2) 子どもの治療・健康管理に関わる看護 3) 子どもの日常生活にかかわる看護 1. 外来における子どもと家族の看護 1) 外来の (健康増進・一般・専門・救急) の特徴 と看護 2) 子どもの入院支援 2. 入院における子どもと家族の看護 1) 入院が子どもと家族に及ぼす影響 2) 子どもの入院環境 1. 急性期にある子どもと家族への看護 1) 急性症状のある子どもと家族の看護 2) 救命救急処置が必要な子どもと家族への看護 (誤飲 (誤嚥)・熱傷・溺水など) ①乳幼児の意識レベル 3) 手術を受ける子どもと家族の看護 ①計画手術 ②日帰り手術 ③子どもの痛み	講義

12 ～14	5. 検査や処置を受ける子どもの看護	2. 慢性的な疾患・障がいがある子どもと家族への看護 1) 先天性疾患や慢性的な経過をとる疾患をもつ子どもと家族への看護 ①子どもの疾患に対する家族の受容と援助 ②疾患による子どもと家族の生活の変化 ③多職種連携・地域連携・学習支援・復学支援 ④成人診療科へのスムーズな転科を見据えた移行支援（トランジション） 2) 心身障害のある子どもと家族の看護 3) 医療的ケアを必要とする子どもと家族の看護 ①入院生活から在宅への移行に向けた支援 ②多職種との連携と社会資源の活用 3. エンド・オブ・ライフにある子どもと家族への看護 1) 子どもの死の理解と看護 2) 子どもと家族への緩和ケア 3) 子どもを看取る家族のケア	講義
	6. 症状を示す子どもの看護	1. 子どもにとっての検査・処置体験 1) 検査を受ける子どもの反応とプレパレーション 2) 検査処置の前・中・後の観察と安全安楽への看護 3) 検査処置を受ける子どもの家族への看護 2. 子どもと家族のアセスメント 1) 全体像を把握 2) 臨床診断（看護問題の抽出） 3) 看護援助を考える（プレパレーション実施）	講義 グループワーク 講義演習 グループワーク
	7. 学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学科試験 学習項目 1：50% 2～5：25% 6：25%	

授業科目名	小児看護学Ⅲ（健康障害をもつ新生児～思春期の子どもと家族の看護）				
開講年次	2年生	単位数	1	時間数	15
テキスト	小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論：医学書院 小児看護学② 小児臨床看護各論：医学書院				
関連科目	地域在宅看護論 母性看護学概論・各論：医学書院				
参考図書	子どもの病気の地図帳：医学書院				
学習のねらい	医療技術の進歩は多くの子どもの命を救うことになったが、一方で子どもの病気は重症化し、入院生活を余儀なくされることもある。また、ノーマライゼーションの思想から、重度心身障害児や医療的ケアが必要な子どもの在宅医療が進められている。こうした状況の中で、21世紀を担う子どもたちが最善の利益を守られ、地域において生き生きとその子らしく生活できるように、様々な健康状態にある子どもの成長・発達と生活する場による子どもたちの違いからその子らしさを理解し、その援助について学ぶ。また、既習授業で学んだ小児看護学から、行動の根拠となる知識を再確認しながら判断する過程を繰り返し、子どもを支える家族と共に、子どもの最善の利益を守ることを理解し、それぞれの子どもに適した看護の方法を習得する。				
目標	1. さまざまな症状を示す子どもと家族の看護を理解する。 2. 子どもの状況に合わせた必要な看護について理解する。 3. 疾病の経過に応じた子どもと家族の看護を理解する。 4. 疾病をもち、地域で生活・療養する子どもと家族について理解する。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1. 健康障害別看護 （健康問題と心理的・社会的問題を抱えた子どもと家族の看護）	1. ハイリスク新生児の集中治療と看護 1) 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常の子どもと家族の看護 ①胎外生活への適応を支える看護 （体温・呼吸・循環の調整、水分・電解質） ②低血糖予防・感染予防 2) 成長発達を支える看護 ①ふれあい・安楽な姿勢保持 ②授乳 ③環境調整 ④支援体制の整備 ⑤家族への説明と家族の思い ⑥親子・家族関係の促進			講義 グループワーク
2		2. アレルギー・免疫疾患をもつ子どもと家族の看護 1) 食物アレルギー 2) 気管支喘息 ①喘息症状のコントロール(自己管理促進) ②アドビアランス向上への支援 3) 若年性特発性関節炎（急性期～寛解期） 3. 消火器疾患のある子どもと家族の看護 1) 消火器疾患による影響 2) 先天性の形態異常（唇裂・口蓋裂）			

3	2. 特別な状況にある子どもと家族への看護	4. 地域に戻り医療的ケアを受けながら生活する子どもと家族の看護 1) 子どもの在宅療養の環境 ①健康状態・生活状況の把握 ②医療的ケア（吸引・経管栄養・在宅酸素） ③保育園・学校などの支援システム ④多職種との連携と社会資源の活用 5. 虐待を受け子どもと家族の看護と支援 1) 虐待の現状と対策の経緯 2) 子どもの虐待とは 3) リスク要因と発生予防・早期発見 4) 特徴的にみられる状況（子ども・養育者） 5) 求められるケア（支援体制の確立） 6) 多機関・他職種の連携および協働	講義 グループワーク 講義 グループワーク
4～7	3. おもな疾患をもった子どもと家族の看護	1. 脳・神経系疾患と看護 1) てんかん 2) 熱性けいれん 3) 脳腫瘍 4) 意識障害 5) 筋疾患 6) ギランバレー症候群 7) 二分脊椎症 2. 感染症と看護 1) 感染症の子どもと家族の基本的看護 2) 主な疾患（ウイルス・細菌・真菌・その他の病原体） 3. 血液・造血器疾患、悪性新生物と看護 1) 特発性血小板減少性紫斑病 2) 血友病 3) 貧血 4) ウイルムス腫瘍 5) 白血病 6) 神経芽腫 4. 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護 1) 腎炎 2) ネフローゼ症候群 3) 尿路感染症 4) 先天性奇形（水腎症など） 5. 代謝性疾患 1) I型糖尿病…子どもと家族への指導 6. 循環器疾患と看護 1) 先天性心疾患（ファロー四徴症・心室中隔欠損症）2) 川崎病 3) 急性心筋炎	講義
8	4. 学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学科試験 学習項目 1, 2 : 50% 3 : 50%	

授業科目名	母性看護学Ⅰ				
開講年次	1 年生	単位数	1	時間数	30
テキスト	母性看護学① 母性看護学概論 : 医学書院 母性看護学② 母性看護学各論 : 医学書院				
参考図書	国民衛生の動向 : 厚生統計協会 病気がみえる⑨ : メディックメディア				
学習のねらい	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と意義を基盤に、女性のライフサイクル各期の特徴や発達課題などから対象を生理的、病理学的に理解し、各期における女性の健康問題とその看護の基礎的知識について学ぶ。人間の性と生殖について理解し、母性看護における意義・生命倫理・看護倫理・責務・看護師の役割について学ぶ。また、母性看護の歴史的変遷と現状を母子統計、法律などから学び母性看護学の役割を理解する。				
目標	1. 母性を取り巻く社会状況の変化を知り、現代社会における母性の概念を理解する。 2. 母性看護の変遷・動向を理解し、母性看護の役割および今後のあり方について理解する。 3. 母性看護の目的をリプロダクティブ/ライツの観点から理解する。 4. 性と生殖の意義、生殖医学に関する生命倫理について考えを深められる。 5. 母性看護の対象を身体的・社会的・心理的側面から理解する。 6. 女性のライフサイクル各期の健康問題とその看護を理解する。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1～4	1. 母性看護の基盤となる概念 2. 人間の性 3. 母性看護の倫理 4. 母性看護を取り巻く社会の変遷と現状	1. 生殖に関する生理 2. 母性とは、父性とは（広義と狭義） 3. 母子関係と家族関係（家族発達） 1) 母性関係の確立 2) 愛着 3) 母子相互作用 4. セクシュアリティ 1) 性の多様性 2) 性分化疾患 5. リプロダクティブ/ライツの概要 6. 母性看護のあり方 7. 母性看護における倫理			講義
5～11	5. 母性の対象理解	1. 母性看護の変遷と現状 1) 母性看護の歴史的変遷 2) 母子保健施策 3) 母性看護に関わる法律 ①健やか親子 21 および子育て支援 ②働く女性と社会環境 2. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 3. 女性のライフサイクルと家族 4. 母性の発達・成熟・継承 5. リプロダクティブヘルスケア 1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) 人工妊娠中絶と看護 ①産む性、産まない性、産めない性 : 女性の選択			

12	4. 女性のライフサイクル各期の 特徴と看護	4) 喫煙女性の健康と看護 5) 性暴力を受けた女性に対する看護 6) HIV に感染した女性に対する看護 7) 国際社会と母子保健 1. ライフサイクル各期における看護 1) ライフサイクルにおける女性の健康 と看護の必要性 2) 思春期・成熟期・更年期・老年期の 女性の特徴と看護	講義 グループワーク
13～14	5. 母性看護の展望と課題	2. 母性の生命倫理から今後の展望・課題 を考える 1) 母性看護学授業の学びから考える	
15	6. 学科試験 まとめ	単位認定試験	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学科試験 100%	

授業科目名	母性看護学Ⅱ (妊娠～分娩期・褥婦と新生児の看護)				
開講年次	1 年	単位数	1	時間数	15
テキスト	母性看護学② 母性看護学各論 : 医学書院				
参考図書	病気がみえる⑩産科 : メディックメディア ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図 : 医学書院 母乳育児支援スタンダード : 医学書院 妊産婦のケア : 医歯薬出版				
学習のねらい	妊娠・分娩・産褥各期における対象の身体的、心理的社会的変化について理解し、それらの変化が円滑に適応するための必要な日常生活援助や安全安楽の援助方法を学ぶ。また、胎児の発育発達について妊娠の経過にそって理解し、妊娠各期に応じた保健指導の必要性和その方法を学ぶ。妊娠・出産・産褥の一連の過程から新生児に至るまでの正常な経過と以上について考え学ぶことで、母子の健康を維持・促進し、新生児を家族の一員として迎え、親として適切に世話をすることができるように援助する方法を学ぶ。				
目標	1. 正常な妊娠・分娩・産褥経過を理解する。 2. 周産期にある母子、家族の心理的・社会的特徴と看護を理解する。 3. 新生児の生理を理解する。 4. 新生児に必要な看護を理解する。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1～3	1. 妊娠期における看護	1. 妊娠の生理と妊婦の看護 1) 妊娠期における看護師の役割 2) 妊娠期の身体的特性 ①妊娠とは ②妊娠の成立、胎盤の形成と胎児の発育 ③母体生理的変化 3. 妊娠期の心理・社会的特性 1) 妊婦の心理、妊婦と家族および社会 4. 妊婦と胎児のアセスメント 1) 問診、外診、内診、臨床検査、日常生活に関するアセスメント ①妊婦の不快症状 ②妊婦の日常生活とセルフケア 5. 妊婦と家族の看護 1) 母子保健サービス、保健相談 2) 出産・育児の準備 (親になるための準備) 6. 妊娠の異常と看護 1) 妊娠悪阻 2) 妊娠貧血			講義
4～5	2. 分娩の生理と看護	1. 分娩の生理と産婦の管理 1) 分娩の定義 2) 分娩の三要素 3) 分娩の経過と分娩機転 4) 分娩促進への看護			

回数	学習項目	学習内容	方法
6	3. 産褥の生理と褥婦の看護	2. 産婦・胎児の健康のアセスメントと看護 1) 分娩・が母子におよぼす影響 2) 産婦と家族の心理・社会的状態 3) 分娩各期の看護 ①産婦の基本的ニーズへの支援 ②産痛緩和への看護 ③産婦と家族の心理への看護 3. 異常分娩をきたした産婦の看護 1) 弛緩出血と看護 2) 微弱陣痛と看護 ③破水と看護 1. 産褥期の定義 2. 産褥期の身体的特徴 1) 退行性変化 2) 進行性変化 3. 褥婦と家族の身体的・心理的・社会的変化 4. 褥婦の健康と生活のアセスメントと看護 1) 産褥復古促進の援助の理解 2) 母乳栄養の確立 3) 褥婦の日常生活とセルフケア ①親役割への支援 ②育児技術獲得への支援	講義 グループワーク
7	4. 新生児の看護	1. 早期新生児の特徴と看護 1) 早期新生児の定義と特徴 2. 早期新生児の健康発育おアセスメント 1) 身体各機能の評価 ①成熟度評価 ②アプガースコア 3. 早期新生児と家族への看護 (母子相互作用を促す援助) 1) 保育環境 2) 保温 3) 全身の観察 4) アタッチメント 5) 感染・事故防止	講義 グループワーク
8	5. 学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学科試験 100%	

授業科目名	母性看護学Ⅲ (周産期におけるハイリスク妊・産・褥婦、 新生児の看護・母性看護技術)				
開講年次	1 年次	単位数	1	時間数	15
テキスト	母性看護学② 母性看護各論 : 医学書院				
参考図書	ウェルネスからみた母性看護+病態関連図 : 医学書院 母性看護技術 : 医学書院 病気がみえる⑩産科 : メディックメディア 写真でわかる母性看護技術 : インターメディア				
学習のねらい	周産期における経過のなかで、正常から逸脱している状況を理解し対象への援助および保健指導の必要性や、セルフケア能力を高める看護を学習する。また、ウェルネスの視点に立ち、健康的に周産期を過ごすためのセルフケアとより良い母子・家族関係を築くための看護を、事例展開を通して学ぶ。				
目標	1. 周産期における妊産褥婦・新生児の異常と看護を理解する。 2. 母性看護における看護技術を習得する。 3. 周産期にある対象の、ウェルネス思考での看護過程の展開ができる。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1. ハイリスク妊娠 2. 妊娠の異常と看護	1. ハイリスク妊娠とは 1. 妊娠期の健康問題 1) 流産・早産 2) 常位胎盤早期剥離 3) 前置胎盤 4) 妊娠高血圧症候群 5) 妊娠糖尿病 1. 分娩期の健康問題 1) 産道の異常 2) 娩出力の異常 3) 前期破水 4) 分娩時の異常出血 5) 産科手術 ①帝王切開術 ②吸引・鉗子分娩 6) 胎児機能不全			講義
2	3. 分娩の異常と看護	1. 産褥期の健康問題 1) 産褥感染症 ①産褥熱 ②乳腺炎 ③尿路感染症 2) 子宮復古不全 3) 産後うつ 4) 帝王切開術 5) 母子分離状態にある褥婦の看護 6) 死産・障がいをもつ新生児を出産した褥婦と家族の看護			
	4. 産褥の異常と看護	1. 新生児の健康問題 1) 健康逸脱した新生児の看護 ①高ビリルビン血症(光線療法) ②低血糖 ③分娩外傷 ④分娩仮死 2) 低出生体重児			
3～4	5. 新生児の異常と看護	1. 妊・産・褥婦の計測および授乳の指導			講義演習
	6. 母性看護における看護技術				

5～7	7. 周産期にある対象の看護過程の展開	1) 妊婦の腹囲 2) レオポルド触診法 3) 子宮底測定（子宮復古の観察） 4) 直接授乳時のポジショニングと吸着の看護 2. 新生児の計測・沐浴 1) 新生児のバイタルサインの測定 2) 沐浴 1. 母性看護における対象を理解し、看護につなげる 1) ウェルネス診断（志向）とは 2) 周産各期におけるアセスメント項目と、診断に必要な視点 3) 新生児期のアセスメント項目と、診断に必要な視点 ※各自がアセスメントをしてきた上で、看護の方向性および妊娠期の保健指導場面の関りについてグループワーク	講義 グループワーク
8	8. 学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学習項目 1～6：70%（技術レポート含む） 7：30%	

授業科目名		看護の統合と実践Ⅰ (看護研究①)	担当教員			
開講年次		2 年次 前期	単位数	1	時間数	15
テキスト						
参考文献・関連科目		よくわかる看護研究論文のクリティーク第2版 日本看護協会出版 https://www.nurse.or.jp/nursing/international/icn/document/index.html 看護職の倫理綱領・看護研究のための倫理指針（日本看護協会） 看護学概論 医学書院				
学習のねらい		新たな知見と技術を発見する手がかりの1つとなる看護研究の基礎を学び、他者の研究論文を通してクリティカルな思考を身につける。 また、専門職者として看護の質の向上をめざすため、事例研究を通して論文の書き方、発表の方法を学ぶ。				
目 標		1. 看護研究の意義と必要性について理解する 1. 研究のプロセスを理解する 3. 実践した看護を事例学習レポートにまとめ発表できる。				
回数	学習内容	学習項目			方法	
1 2	1. 看護研究の意義	1) 看護研究とは 2) 看護専門職と看護研究 3) 看護研究と倫理的配慮 ・研究と基本的人権 ・倫理上の原則 ・研究計画審査機構 ・研究テーマの発見の仕方			講義：4 時間	
3 4 5	2. 研究計画と文献検索	1) 文献検索の方法 2) 文献クリティークの実際 3) 研究計画書の立て方 研究計画書作成の目的と概要			演習：7 時間 文献検索にて原著論文を選択し、クリティークレポートを提出する	
6 7	3. 研究論文のまとめ方と発表の方法	1) 論文の構成とまとめ方 2) 研究計画書の書き方の実際 3) 論文をまとめる上での注意事項 4) 発表原稿と発表資料のまとめ方			講義 4 時間	
8	4. 評価	筆記試験			1 時間	
評価方法		授業の出席時間および授業態度、授業中に提示した課題・事例学習				
評価区分		筆記試験 50%・看護研究文献クリティークレポート 50%				

授業科目名	看護の統合と実践 I 看護管理		
時期	令和 5 年 9 月 1 日～9 月 19 日	時間	10 時間 (5 コマ)
講師名			
テキスト	「看護学概論」「看護管理」 医学書院		
参考書			
授業概要	【学習目的】 1. 病院や看護実践の場を組織的に捉え、チーム医療及び多職種との協働の中で、看護師としての役割が理解できる 2. 安全で質の高い看護実践を提供するために、感染管理・安全管理について基礎的知識を理解する。		
授業計画	【学習目標】 1. 看護管理の目的について理解できる 2. 看護におけるマネジメントについて理解する。 3. 多職種との協働および組織の一員としての看護師の役割や行動が理解できる。 【学習内容】 看護管理 1. マネジメントの概念 2. 組織・経営と職務 3. 医療・看護の質保証 4. 安全管理 5. 感染管理 6. 労務管理 7. 人材育成と活用		
評価方法	授業出席時間および態度 授業中に掲示した課題 筆記試験 (選択・記述)		
受講生への メッセージ	「楽しい時間」を一緒に過ごしていきましょう		

授業科目名		看護の統合と実践Ⅱ (看護研究②)			
開講年次		2 年次 前期	単位数	1	時間数 15
テキスト					
参考文献・関連科目		看護学生のためのケーススタディ : メジカルフレンド社 https://www.nurse.or.jp/nursing/international/icn/document/index.html 看護職の倫理綱領・看護研究のための倫理指針 (日本看護協会) 看護学概論 医学書院			
学習のねらい		専門職者として看護の質の向上をめざすため、自分の行った看護を文献を使って考察し、論文をまとめ、校内事例発表会で発表できるようになることがねらいである。			
目 標		1. 実践した看護を事例学習レポートにまとめることができる。 2. 口述発表を通してプレゼンテーション能力を身につけることができる。			
回数	学習内容	学習項目			方法
1 2 3 4	1. 事例学習論文作成	1) 研究計画書の作成 2) 論文の作成			演習 8 時間 担当教員の指導のもと個人演習
5 6 7 8	2. 事例学習発表	校内事例研究発表会にて発表			演習 7 時間 (会場準備の時間を含む)
評価方法		学習態度、事例学習の内容			
評価区分		個別指導事例学習 100%			

授業科目名	看護の統合と実践 III (看護管理・業務マネジメント)		担当講師			
開講年次	2年次	前期	単位数	1	時間数	20
テキスト	看護学概論 看護管理 : 医学書院					
参考文献・関連科目	医療安全：医学書院・生命倫理、医療安全					
学習のねらい	看護管理活動の場は病院のみならず、地域の保健医療福祉の場へと拡大している。 看護は、管理者だけでなく看護実践者にも必要な知識と技術であることを理解した上で、組織の一員であることを自覚し、チームとして質の高い看護を提供することが大切であると理解できることがねらいである。 新人看護師として現場に出たときのリアリティショックを軽減できるよう業務のマネジメントをする方法を学び、複数の患者を受け持ち、看護するにあたって、チームで協力し、優先順位を考えて看護実践や業務が遂行できるように基礎的な能力を養う。					
目 標	1. 看護管理の目的について理解できる 2. 看護におけるマネジメントについて理解できる 3. 多職種との協働および組織の一員としての看護師の役割が理解できる 4. 業務遂行のためのマネジメントが理解できる 5. 複数患者を受け持った設定で、優先順位を考えて観察ができる。 6. 模擬患者の病室設定で、状況に応じた対応ができる。					
回数	学習内容	学 習 項 目				方法
1	1. マネジメントの概念	1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2) 看護管理システム				講義：10 時間
2	2. 組織・経営と職務	1) 病院組織とリーダーシップ 2) 多職種間の協働におけるリーダーシップ、メンバーシップ 3) 人材・物資・経済について				
3	3. 医療・看護の質保証	1) 質の高い看護ケアを行うためのケアマネジメント 2) チーム医療 5) 安全管理 ①安全管理の仕組み ②医療事故対策 ③院内感染対策 6) 継続教育、キャリア開発 7) 看護職員の労働安全衛生				
4						
5		2. 看護行政 1) 看護行政の組織 2) 看護にかかわる診療報酬 3) 看護職員の確保 4) 看護職員の労働環境				

76

6	4. 業務遂行のためのマネジメント	1) 1日の業務の組み立て ①複数患者を受け持つための情報収集・管理 ②1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理 ③優先順位を決定するための情報整理 ④業務時間の管理 ⑤報告・連絡・相談 2) 多重課題への対処 ①多重課題の危険性 ②多重課題発生時の対処の原則	講義 3 時間
7	5. 看護体制	1) 看護者間のコミュニケーション（引継ぎ） 2) 看護体制の種類とそれぞれのメリット、デメリット	
8 9	6. 演習準備	1. 演習オリエンテーション（統合実習のオリを含む） 2. 複数患者受け持ち設定課題演習のための事前学習 3. 複数患者受け持ち設定での演習 4. 演習後のリフレクション	オリエンテーションと 事前学習：1 時 間 演習：6 時間
10	6. 学科評価	単位認定試験	学科試験 1 時 間
評価方法		授業の出席時間および授業態度、授業中に提示した課題 事例学習レポート	
評価区分		看護管理：40% 業務マネジメント：筆記 30%、課題 20%、レポート 20%	
		筆記試験 1 時間	

授業科目名		看護の統合と実践 IV (災害看護・国際看護)	担当教員 講師			
開講年次	2年次 後期		単位数	1	時間数	15
テキスト	災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ : 医学書院 基礎看護学① 看護学概論: 医学書院 小児看護学① 母性看護学① 精神看護学② 地域・在宅看護論① 成人看護学					
参考文献・関連科目	Where there is no doctor: Macmillan 他					
学習のねらい	近年、災害の頻度や規模が拡大し、被害も拡大している状況がある。このような状況の中で、被災傷病者の医療・看護への期待は大きく、看護職者は人々の健康にかかわる看護の専門職として、役割を発揮していく必要性が理解できるように学習する。 また、グローバル化にともない日本においても諸外国の方々が看護を受ける機会は増えている。看護の対象は人間であり、日本人の看護以外にも目を向け対象の理解につなげるよう国際看護についても学んでいく。					
目 標	1. 災害医療・災害看護の概念が理解できる 1. 災害各期の看護活動を理解する 2. 災害時の応急処置の実際を理解する 3. 国際社会における看護について理解できる					
回数	学習内容	学習項目			方法	
1 2 3 4	1. 災害医療と看護 2. 災害の種類と災害サイクル 3. 災害時における心のケア 4. 地域での暮らしにおける災害対策	1) 災害医療の基礎知識 ①災害看護の定義と役割、災害看護と救急看護の違い ②災害看護の対象 ③災害看護の特徴と看護活動 1) 災害サイクルとは 2) 災害サイクル別の看護活動 ①災害準備期の看護 ②災害に備えたシステムの整備 ③災害が起こったときの災害の軽減化 1) 災害にみまわれた人の心理 2) 災害急性期の心のケア 3) 支援者のメンタルヘルスとケア 1) 災害が暮らしに与える影響 2) 地域・在宅看護と災害対策 3) 災害対策における地域・在宅看護の役割			講義: 8 時間	

